資料2

次期学習指導要領で求められる資質・能力等とＩＣＴの活用について

平成２９年３月１３日
効果的なＩＣＴ活用検討チーム

１．総論

（これからの教育の在り方）

今後の ICT 整備の方針について検討するためには，当然ながら，それがどのような学習に用いられるかを前提とする必要がある。その根拠が，学習指導要領に求められるべきことは言うまでもない。次期学習指導要領では，学習内容が資質・能力の三つの柱によって構造的に示される。三つの柱とは，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」である。従来からの学力の三要素に，原則対応しているが，それぞれについてより深く掘り下げている。

「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性」は，教え込んで身に付くものではない。自分自身で主体的に学習にのぞみ，その中で深く考えるような学習を通して身に付けていく。

自転車に乗ることを考えると，よくわかる。「ある程度速度が出ることで安定する」というような知識を覚えているだけでは，自転車に乗れるようにはならない。実際には怖くて速度を出すことができない。少しずつ，補助をしてもらいながら，バランスの取り方を覚えていく。自転車に乗ってみないで、実際に自転車に乗れるようにはならないのである。

このように，主体的な学びを引き出す学習の方法が，アクティブ・ラーニングである。それによって，主体的・対話的で深い学びを生み出すことを目指すのが，これからの教育の姿である。

また、学習指導要領案では、主体的・対話的で深い学びを引き出しつつ、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成の重要性が指摘されている。そこには、「言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」とある。これらを踏まえると、各教科の中に情報活用能力育成等の学習の基盤となる資質・能力の育成の文脈をきちんと埋め込みつつ、同時に、各教科の見方・考え方に基づいた主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

に対して用いることのできるICT環境が欠かせないと言える。

（教育用コンピュータでできること）

教育用コンピュータは，様々な機能を持つ。各学習者に１台ずつ配布して，その機能を生かした学習が試みられている（図参照）。

(1) 個別のドリル学習

計算練習や漢字練習，単語練習などは，出てきた問題に解答すれば，即座に採点されるようなシステムを用いると効率的に実施できる。これは従来から，紙の教材で行ってきたことである。しかし，紙でできないものが自動採点によるIKR（Immediate Knowledge of Results：即座に結果を返すこと）である。

協働的に練習を行うような学習も考えられる。例えば，学習者を教科リーダーに分け，授業の初めに学習内容と関連するフラッシュカード型の教材を一斉配布する。各学習者は，それを使って３分程度繰り返し練習して，知識の定着を図る。教材は，リーダーが作成し，教師の了承をもらっておく。教師との打ち合わせ時に柔軟に問題を変更でき，印刷の必要がなく，一瞬で全員に配布することができることが，紙では実現できないスピードを生み出す。

(2) 試行錯誤する

教育用コンピュータの教材に，指定された時刻に時計を合わせる教材がある。自分で色々試してみて確かめる。学習用の時計は「お道具箱」に入っているが，デジタル教材は多様なものを準備できる。しかも，IKRが可能である。コンピュータ教室があれば，同様の教材を実行可能ではあるが，通常の授業の一部に少しだけ行うような学習のために，コンピュータ教室を予約し移動するのは非効率的である。

(3) 写真撮影する

教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を一人１台持つということは，全員がカメラを持っているということである。一人一人が観察に行った時に，対象を撮影してくることができる。従来は，現場でスケッチをしてきたが，スケッチと写真では，その後の使い方が異なってくる。写真であれば，教室で再度観察し直すことができる。

(4)　念入りに見る

教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）には，画面を拡大するピンチアウトという機能がある。写真や画像資料の細部を，その機能を使って念入りに見ることで，各学習者の気付きが根拠をもつ。(3)でみたように，一人ひとりが現地で撮影した写真を，詳しく観察して学び直すことが可能になる。

(5)　録音・録画と再視聴

教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）には，通常ビデオ撮影する機能も付いている。英語の発音や詩の朗読などを自分で録音し，それを自分で聞いてふり返り，改善するような学習が可能になる。かつてLL教室で行われていたことを，より高度化してできるのである。また，実験の様子を録画して，後から再視聴しながら現象を詳しく観察し直すことも可能である。

(6)　調べる

教育用コンピュータは，インターネットにもつながる。何かについて調べる学習は，図書室などでも行える。しかし，一人に１つ，資料があたるように準備するのは難しい。インターネットであれば，すべての学習者が自分に必要な情報を閲覧することが可能である。また，複数の学年が同時に図書館を使うのは難しいが，そのような問題も起こらない。

(7)　分析する

調べ学習で情報を集めた後は，情報を整理して分析する。それは，例えば数値の観測データを表に整理したり，グラフ化して傾向を見つけたりすることである。グラフを描くのは，手書きでもできるし，それが重要なこともある。しかし，大量のデータを扱ったり，さまざまなグラフ表現を試したりすることが，教育用コンピュータを用いることで容易になる。また，実践しているその場で，同時進行でデータを処理することもできる。

(8)　考える

思考を促す方法として，シンキングツール（思考ツール）が注目されている。従来，これは紙の台紙と付箋紙で実施してきた。しかし，シンキングツールのアプリケーションが出てきており、アイデアの書き消し，修正，移動などが容易にできるようになっている。また，文字がテキストデータに変換されるため，アイデアを書き出したあとの共有場面などで相互理解を図りやすい。

(9)　見せる

自分の考えを人に伝えるときに，プレゼンの資料などを作成して示しながら話すような学習を，各所で同時に進行できる。これによって，学習者の発言量が増え，協働的な学習を進める土台となる。学習者の画面を大きく映して発表することによって，模造紙などでは読めなかった教室の後ろの学習者も読むことができるようになる。

(10)　共有・協働する

画面（に記録されたアイデア）を送信する機能がある場合，互いのアイデアを自分のものと組み合わせたり，編集して活用したりできる。また，他者のアイデアに対して質問やアドバイスをすることなども，極めてスムーズに行える。また、全員の画面を一覧にできる機能を使えば，ランダムに質疑・応答して考えを深める授業も可能となる。このような形態の場合，より多くの学習者の発言を引き出すことができ、結果として、自分では発言したり考えたりしない学習者が出にくくなる。さらに、送信する相手を柔軟に選ぶことができるので，席の位置にこだわらないという利点もある。

（一人一台端末の必要性）

以上見てきたように，教育用コンピュータは様々な場面で学習を支えている。それは，従来はあまり行われてこなかった学習を可能にしたり，行われていたとしても効率が悪かった学習を円滑に行えるようにして試行錯誤を促したり，一人一人が確実に学習を進めることを保証するというような意味である。これらはまさに「新しい学び」と呼ばれるもので，これからの社会にでる子どもたちがもつべき様々な力（21 世紀型学力などと呼ばれる）を培うことにつながっている。

学びの質や方法が従来のままなのであれば，必ずしも一人一台の環境は必要ない。しかし，それらが大きく変わろうとしている。それを先取りして，すでに主体的・対話的で深い学びを促す授業を行っている学校もある。そのような新しい学習を実現するためには，どうしても各自が記録する道具や，考えを整理する道具などをもっている必要がある。それを実現するのが，一人一台の教育用コンピュータである。

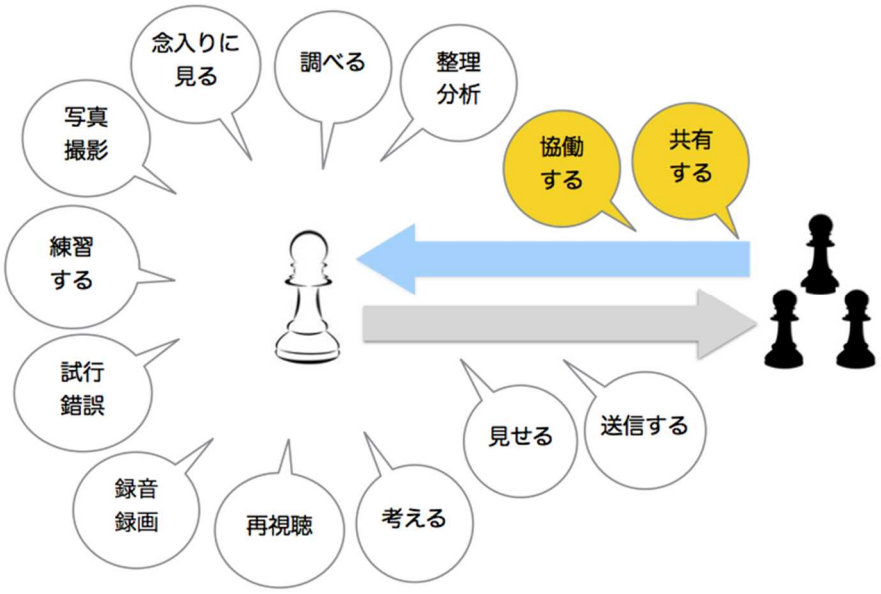

図　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）が支える学習

２．各論（次期学習指導要領で求められる資質・能力とＩＣＴを活用した学習活動のイメージ）

国語	（１）小学校　第１学年	（５）中学校　第２学年
	（２）小学校　第１学年	
	（３）小学校　第４学年	
	（４）小学校　第６学年	
社会	（６）小学校　第３学年	(11) 中学校　第３学年
	（７）小学校　第５学年	(12) 中学校　第１学年
	（８）小学校　第６学年	(13) 中学校　第１学年
	（９）小学校　第５学年	(14) 中学校　第２学年
	(10) 小学校　第６学年	
算数 数学	(15) 小学校　第３・４学年	(18) 中学校　第３学年
	(16) 小学校　第２学年	
	(17) 小学校　第６学年	
理科	(19) 小学校　第３学年	(23) 中学校　第１学年
	(20) 小学校　第３学年	(24) 中学校　第３学年
	(21) 小学校　第５学年	(25) 中学校　第３学年
	(22) 小学校　第５学年	
生活	(26) 小学校　第２学年	
	(27) 小学校　第２学年	
音楽	(28) 小学校　第５学年	(30) 中学校　第２学年
	(29) 小学校　第５学年	
図画工作	(31) 小学校　第２学年	
	(32) 小学校　第２学年	
	(33) 小学校　第３・４学年	
家庭 技術家庭	(34) 小学校　第６学年	(36) 中学校　第２学年
	(35) 小学校　第５学年	
体育 保健体育	(37) 小学校　第６学年	(39) 中学校　第２学年
	(38) 小学校　第１学年	
道徳教育	(40) 小学校　第５学年	
外国語	(41) 小学校　第５・６学年	(42) 中学校　第３学年
総合的な	(43) 小学校　第６学年	(48) 中学校　第３学年

学習の時間	(44) 小学校　第６学年 (45) 小学校　第６学年 (46) 小学校　第６学年 (47) 小学校　第６学年	(49) 中学校　第１学年
特別活動	(50) 小学校　第６学年	
特別支援教育等		(51) 中学校　第１～３学年

※　教科等については、「効果的なＩＣＴ活用検討チーム」協力校で実際に行われた授業を記載したものであり、全ての教科等を網羅したものではない。

(1) 国語〔小学校第１学年〕

１．課題の設定

・　説明的な文章及び文学的文章における語句の意味調べ。

２．学習活動

・　説明的文章及び文学的文章の学習において，語句の意味調べをさせる際に端末機を用いて説明する。（例えば，「スイミー」であれば，「からす貝」の実物を提示しながら説明する等）

３．ICTを活用することの効果

・　文章の読解のためには，語彙の量を増やす指導が欠かせない。画像の提示により，その語句に対する意味理解が格段に進む。
・　意味調べの時間を短縮することもできる。辞書と端末機を併用することにより，意味調べを弾力的に扱うことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　教師からの提示であるため，特になし。

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置
・　教育用コンピュータ（教員用）

(2) 国語〔小学校第１学年〕

１. 課題の設定

・　経験した出来事を思い出して文章を書く。

２. 学習活動

・　書くことを集める取材の前に，教育用コンピュータ（教員用）を用いて実際の様子を撮影した動画を提示し，経験したことから書くことを見付ける。
・　伝えたいことを明確にし，見聞きしたことを書く活動を行う。

３. ICTを活用することの効果

・　一場面でもそのときの様子を見返すことにより，経験したことを想起しやすく，書くことを明確にできる。
・　また，動画を見ることにより，したことの順序性を確認したり，そのときの気持ちを思い出すことが容易にできる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　教師からの提示であるため，特になし。

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置
・　教育用コンピュータ（教員用）

(3) 国語〔小学校第４学年〕

１. 課題の設定

・　生活の中で役立つ「ゆめのロボット」を考え，６年生に提案する。

２. 学習活動

・　自己の経験や知識を基にした生活の中で役立つ「ゆめのロボット」を考える。
・　「役立つ」とはどのようなことかという学習課題を設定し，考えた「ゆめのロボット」を学級内で伝え合う。
・　教材文「わたしのゆめのロボット」と「着るロボットをつくる」を読み，筆者の考えを読み取り，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて必要な叙述を選択判断する。
・　必要な叙述を取り入れて自分の考えをまとめ，プレゼン資料を作成し，プレゼンテーションソフトを用いて，考えた「ゆめのロボット」を相手に伝わるようにプレゼンする。

３. ICTを活用することの効果

・　「役立つ」という言葉の意味に着目して考えた「ゆめのロボット」を分かりやすく伝えるために，注目してほしい部分の文字の大小や色遣いなどを容易に変更できる。
・　事前に描いた「ゆめのロボット」の絵を画像として取り込んでプレゼン画面を構成することで，聞き手に対して具体的なイメージをもたせて分かりやすく提案することができる。
・　従来は音声のみで考えを伝え合うことが多かったが，プレゼンテーションソフトを用いてプレゼン画面を作成することで，自分の考えを視覚的な文字情報も併せて分かりやすく伝えることができる。
・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を大型テレビに接続してプレゼン画面を投影することで，より見やすくなり，自分の考えを伝えやすくなる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 自分の考えをまとめるために文章の要点を読み取る技能
- 教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のプレゼンテーションソフト等の操作能力、データ保存等
- プレゼンテーション能力（画面作成・話す力等）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（大型テレビ，可能であれば複数台）
- 教育用コンピュータ
- ソフトウェア（プレゼン）

(4) 国語〔小学校第６学年〕

1. 課題の設定

・　グラフを読み取った上で，グラフの内容に対して意見文を書く。

2. 学習活動

・　グラフの特徴的な変化等，注目する言葉や数字から，考えられることを述べ，書くことを選ぶ。(書くべきこと・書きたいことを洗い出す)
・　ワープロソフトなどのアプリケーションを活用して，筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えながら，800 字程度で自分の意見をまとめる。まとめる際には事実と感想，意見を区別してまとめる（書くべきこと・書きたいことの順序を検討し，実際に書いてみる)。
・　書き上がったら，原稿をグループで読み合い，文章全体の構成や表現の方法等の文章に対するアドバイスをし合う（他者との対話を通じて，考えを広げる)。
・　修正点をワープロソフトなどのアプリケーションに反映させ，印刷して教員の指導を受ける。
・　教員から指導内容を反映させて最終印刷をする（表現する)。
・　発表会をする。

3. ICTを活用することの効果

・　文章を書くためには，筋道の通った文章となるよう，文章全体の構成や展開を考えたり，事実と感想，意見とを区別して書いたりすることなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するが必要であり，そのためには，文章の推敲が不可欠である。
・　原稿用紙の場合，書き終えるだけで疲れ切ってしまう児童生徒もおり，その後の文章校正が難しくなる児童生徒も少なくない。また，文章校正後に，最初から書き直しする際にモチベーションが低下する児童生徒もいる。
・　ワープロソフトを活用することにより，素早く文章を書き，繰り返し書き直す等の活動を通じ，「書くこと」に関する「知識及び技能」並びに「思考力，判断力，表現力等」について効果的に学習可能な場合があり，そのことが，自分の思いや伝えようとする態度の育成にもつながっていくことが期待される。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 資料の出典等の明記のルールなど
- ワープロソフト等の活用スキル（キーボード操作スキル等）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置
- 教育用コンピュータ（キーボード付）
- ネットワーク
- ソフトウェア（ワープロ）
- その他（共有フォルダ）

(5) 国語〔中学校第２学年〕

１. 課題の設定

「動詞はどのように分類できるだろうか。」
・　生徒に１人１つの動詞（合計 27 個）を割り振る。
・　自分の担当した動詞と同じ種類の動詞を担当する仲間をウォーキングトークしながら見つける活動を通して，動詞を活用の種類によって正しく分類する。

２. 学習活動

・　デジタルワークシートに 27 個のうち自分で選んだ動詞の活用を書き込む。
・　ウォーキングトークしながらデジタルワークシートを見せて説明し合い，自分と同じ活用をしている生徒を集める。
・　27 個の動詞を活用の種類によって生徒たちにグルーピングさせる。
・　デジタルワークシート内に保存した動詞のグルーピングを参考に，練習問題に取り組む。

３. ICTを活用することの効果

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内に準備してある活用表を参考にしながら自分たちでグルーピングが行え，単語の類別がしやすくなる。
・　ヒントシートとして，いつでもすぐに必要な資料を引き出せる。
・　自分の意見を発表する際にデジタルテレビにつなげることで，黒板に書いてまとめるより，時間の短縮となる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

―

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（デジタルテレビ）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（デジタルワークシート）

(6) 社会〔小学校第３学年〕

1. 課題の設定

・　学校周辺の地域を方角毎に探検して，特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子を具体的に調べ，白地図に書き表すことができる。

2. 学習活動

・　東西南北それぞれの方面を探検して，特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子について調べることを目的として設定する。
・　班ごとに探検し，調べて気付いた特徴をメモしたり，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）で撮影したりする。
・　調べて分かったことを白地図に書き表し，身近な地域を大まかに理解させる。
・　学級全体で特徴を共有し，場所による違いを考える。

3. ICTを活用することの効果

・　位置情報を設定することによって，撮影した写真を端末上の地図に表示させることができるため，白地図と対応させながら書き表すことが容易になり，地形や土地利用，交通の様子から場所による違いを考えやすくなる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　地図を効果的に活用して必要な情報を読み取る技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置
・　教育用コンピュータ（カメラ機能）

(7) 社会〔小学校第５学年〕

1. 課題の設定

・　日本の国土の位置，構成，領土の範囲，地形等について調べ，国土の特色を理解する。

2. 学習活動

・　日本の位置について説明する課題を設定する。
・　日本の東西南北の端について，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用い，インターネット地図検索ソフトで位置や様子を調べる。
・　日本の国土の構成，領土の範囲，地形等について，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用い，インターネット地図検索ソフトで具体的に調べることで，大まかに理解する。
・　調べて分かったことを基に日本の国土の様子を捉え，特色について考えをまとめ，説明し合う。

3. ICTを活用することの効果

・　インターネット地図検索ソフトで地図を拡大・縮小したり，航空写真にしたりして調べることで，日本の位置や空間的な広がりに着目する「社会的な見方・考え方」を働かせて，国土の特色について具体的に調べ，考えることができる。
・　説明し合う際に，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）から大型テレビに無線接続し，画面を使って説明できるようにすることで，プレゼンテーション能力を高めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　インターネット地図検索ソフトを活用する知識・技能
・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）から大型テレビに接続する知識・技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（大型テレビ）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（地図検索，無線接続，プレゼン）

(8) 社会〔小学校第６学年〕

１. 課題の設定

・　室町文化について調べ，室町文化の特色と今日の生活文化とのつながりを理解する。

２. 学習活動

・　室町文化とつながりのある今日の生活文化の画像と，室町文化の画像を複数枚提示し，文化の起源や特色等を調べる課題を設定する。
・　調べる文化（建築物・水墨画・お伽草子等）を選択し，小グループで教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて具体的に調べる（インターネットから画像を入手する)。※ジグソー学習
・　着目した文化の起源や特色を手掛かりに，今日の生活文化とのつながりについて考え，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のプレゼンテーションソフトを用いて，説明をまとめる（画像等を活用する)。
・　室町文化についてプレゼンテーションし合い，文化の起源や特色と今日の生活文化とのつながりを理解する。

３. ICTを活用することの効果

・　室町文化について，画像とともにインターネットで調べることで，時期や時間の経過，人物の業績に着目する「社会的な見方・考え方」を働かせて，文化の特色や今日の生活文化とのつながりを実感的に考えることができる。
・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）から大型テレビに無線接続し，画面を使って説明できるようにすることで，プレゼンテーション能力を高めることができる。
・　ジグソー学習とすることで，他者が調べた情報に関心をもって学習し，全体で調べたことを共有して室町文化の特色や今日の生活文化とのつながりを理解し，まとめることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用い，インターネットから画像等の情報を収集する技能
- プレゼンテーションソフトに，文字や画像を入力する知識・技能
- 教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）から大型テレビに接続し，プレゼンテーションをする知識・技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（大型テレビ）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（無線接続，プレゼン）

(9) 社会〔小学校第５学年〕

１. 課題の設定

「これからの食料生産とわたしたち」
・　私たちが普段食べているものの原産国を調べることを通して，日本の食料自給率の低さを実感するとともに，課題解決へ向けた議論を行う。

２. 学習活動

・　家族とスーパーマーケットへ行き，一食分の食料品を購入する際に，商品表示に注目し，原産国をメモする。
・　家族と食事を一緒に作りながら，調味料など調理に使った材料をすべてメモし，メーカーのホームページ等でどの国で生産された原材料を使用しているかを調査する。
・　グループで食料品や原材料を整理した上で，何がどこの国で作られているのかを表計算に入力する。
・　すべて入力した上で，すべての食料品や原材料のうち，日本で生産されているものの割合を表計算で算出する。
・　すべてのグループから算出された割合を発表した上で，日本の食料自給率と比較する。
・　日本の食料自給率の低さによって生じる問題について生産物の種類や分布，外国との関わりなどに着目して議論し，課題解決へ向けた提案を考える。

３. ICTを活用することの効果

・　すべての食料品や原材料を表計算ソフトに入力して整理する。
・　整理したデータから，海外で生産されたもの，日本で生産されたものの割合等の数値を算出する。このような計算を表計算で行うことで，議論の時間を確保する。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　表計算ソフトの活用スキル（基本的な操作，数値のグラフ化，計算式）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置
- 教育用コンピュータ（キーボード付が望ましい）
- ネットワーク
- ソフトウェア（表計算）
- その他（共有フォルダ）

(10) 社会〔小学校第６学年〕

1. 課題の設定

＜模擬裁判（わたしたちの生活と政治のはたらき）＞
・　実際に起こった刑事事件の模擬裁判を通して，裁判の流れや裁判に登場する人物について理解しながら，裁判員制度のあり方を考えることができる。

2. 学習活動

＜授業の実際＞
・　授業は 2 時間行う。1 時間目は模擬授業を中心に授業を進める。裁判中は投票機能を活用して，随時「有罪」「無罪」を投票し続け，担任は数値の変化をメモし，クラスの意見として情報を共有する。1 時間目の最後に児童それぞれが裁判の判決とその理由を教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に書き込んで電子黒板でクラスの状況を共有する。
・　2 時間目は全員が裁判員としてグループで審議を行う。始めの 20 分はプレゼンテーションソフトを活用して，児童それぞれの判決の理由を論理的に構成して発表し合い，グループ討論をする。授業の最後に「裁判員制度は刑事裁判にとって有効か」について児童が意見を言い合う。

＜単元計画＞
・　第 1 次 国会，内閣，裁判所，三権分立の仕組みを調べる。
・　第 2 次 裁判所や裁判の種類，裁判の流れについて理解する。
・　第 3 次 模擬裁判を通して，裁判員制度の有効性について考える。（本時）

＜本時の展開＞

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント （タブレットＰＣ活用場面）
模擬裁判を行う	・　模擬裁判を行う。 ・　裁判員役の児童は証人や被告人に質問をする。 ・　裁判終了後に児童それぞれの判決とその理	①　模擬裁判を行いながら投票機能を活用して証拠や証言の数値的変化を共有する。 ②　裁判終了後に教育用コンピュータ（タブレッ

	由を共有する。	トＰＣ）で児童それぞれの判決とその理由を書き込んでクラスで共有する。
裁判員としてグループで審議を行う	・　児童それぞれの理由を順序立てて説明し，グループ内でプレゼンする。 ・　グループで審議を行う。 ・　クラスで裁判の判決を行う。	③　プレゼンテーションソフトを活用して，自分の考えをプレゼンする。その際，サーバ上の「個人/グループフォルダ」から証拠や証言のファイルをダウンロードして活用する。 ・　判決に投票機能を活用した。その際，テレビ画面で結果がわからないよう，結果が出るまでテレビの電源は切っておく。
模擬裁判を通して裁判員制度について考える	・　裁判員制度のあり方について考えて発表する裁判員制度のあり方について考えて発表する	・　授業の中で作ってきたプレゼンやファイルを見ながら模擬裁判や自分の意見を振り返る。

３．ICTを活用することの効果

１．児童の気持ち（民意）を常に確認する

裁判ではさまざまな証拠や証言があるが，人それぞれ感じることは違う。また，裁判員制度の大きな特徴として「市民のさまざまな意見を反映させて判決を行うこと」が挙げられる。このことから，裁判中に登場するどの証言でクラスの数値が有罪に傾き，どの証拠が無罪に傾いたか，という「自分以外の意見を知る」ということは重要な情報となる。その際，投票機能は有効で，児童が押したボタンで随時グラフが変化し，クラスの状況を全員が把握できる。

２．自分の意見をクラスで共有する
　裁判終了後に児童それぞれが教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に「有罪」か「無罪」を決めて，その理由を教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に書き込む。有罪だと思ったら赤色の画像ファイル，無罪だと思ったら青色の画像ファイルをそれぞれ「個人/グループフォルダ」から選択し，理由を書くように指示する。電子黒板には誰がどのように感じているのかがひと目でわかり，さらにその意見を大きく映して発表することができる。

３．プレゼンで自分の気持ちや考えを整理して発表する
　自分が出した裁判の判決をグループの友だちに順序立てて説明するために，プレゼンテーションソフトと「個人/グループフォルダ」上のファイル（裁判の証拠資料）を活用してプレゼンを作成した。プレゼンではグループの友だちに教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を見せながら自分の意見を主張し，議論できる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　プレゼンテーションソフトの活用スキル（基本的な操作）

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（授業支援，プレゼン）
・　その他（個人/グループフォルダ）

（11）社会〔中学校第３学年〕

１. 課題の設定

「掛川市をよりよい街にするためにどのような政策を行ってもらいたいか。」
・　複数の資料を分析し，掛川市大須賀地区に必要な政策をランキングする活動を通して，住民の一人として地方自治の発展に寄与しようとする意識を高める。

２. 学習活動

・　エキスパート班をつくり，４人の人物になりきり（ロールプレイ），資料を参考にしながら９つの政策を優先順にランキングをする。
・　デジタルワークシート内にランキングを保存する。
・　ジグソー班をつくり，エキスパート班で考えたランキングを発表する。その後，より多くの人のためになっている政策はどれかを考え，ホワイトボードにジグソー班でランキングをつくる。
・　掛川市の予算についての追加資料を配付する。
・　クロストークを行う。他の班のホワイトボードを見に行き，気になる意見の書かれている班のホワイトボードを教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能で撮影し自分の班に報告する。

３. ICTを活用することの効果

・　教師の作成したオリジナル資料を教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内に保存して，カラーで一人ひとりに必要な分だけ配付できる。生徒は資料を拡大させるなどして資料を分析しやすくなり，他の生徒に対してわかりやすく説明ができるようになる。
・　デジタルワークシート内にランキングを保存することで，メモを書き込んだり，いろいろな班のランキングを比較したりすることができる。
・　プリントにランキングを記入するよりカメラで撮影したほうが時間の短縮になり，考察やグループディスカッションに多くの時間をとることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

―

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ ・　ネットワーク ・　ソフトウェア（授業支援，デジタルワークシート）

(12) 社会〔中学校第１学年〕

１. 課題の設定

「豊田市ではなぜ自動車産業が盛んになったのだろう。」
・　豊田市と掛川市の立地条件を地図や資料を使って比較する活動を通して，豊田市で自動車産業が盛んになった理由を考える。

２. 学習活動

・　豊田市の人口構成のグラフを資料として教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に配付し，他の都市と異なるところをマークする。
・　地図帳を使って，どうして掛川市ではなく，豊田市で自動車産業が盛んになったのかを多面的・多角的に考える。①交通・運輸②原材料③労働力④土地・地形に関する資料もヒントとして配付する。
・　デジタル地図帳の比較機能を使って，電子黒板に豊田市周辺と掛川市周辺の地図を写しだし，生徒に地域の違いや地域的特色を書き込ませながら発表させる。

３. ICTを活用することの効果

・　教師が編成した資料をタイミングよく教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に配付して参考にさせることができる。
・　デジタル地図帳は，同時に２カ所を比較することができ，交通面や地形面などで生徒たちにわかりやすく違いを理解させることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（電子黒板）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（授業支援，デジタル地図帳）

(13) 社会〔中学校第１学年〕

１. 課題の設定

「アメリカで自動車工場をつくるならどこがよいだろうか。」
・　複数の資料を分析し，様々な立地条件から，アメリカの工業が発達している場所と理由を多面的・多角的な視点で考察する。

２. 学習活動

・　個人で予想した後，エキスパート学習を行い，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内に配付した資料を参考に，土地・輸送・原料・労働力の視点から，アメリカ国内のどの場所に自動車工場をつくるべきかそれぞれが考える。班の意見をデジタルワークシートにまとめる。
・　ジグソー学習を行い，エキスパート班で考えた意見を参考に，ホワイトボードの白地図に班で考えた答えとその根拠となる理由を書き込んでいく。クロストークを行い，他の班の意見を参考にする。
・　個人で班の意見や複数の資料を参考に，自動車工場をつくる立地条件としてすぐれている場所を考える。根拠となった資料を教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内の資料置き場から取り出し添付させ，自分の意見としてまとめる。最後にまとめたワークシートのデータを提出させる。

３. ICTを活用することの効果

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いることで，エキスパート学習で使用した複数の資料やグループで考えた内容をジグソー学習グループで簡単に共有することができる。
・　ジグソー学習グループ内で，共有した教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の資料を使いながら，自分の意見を説明できる。
・　授業のユニバーサルデザイン化を目指して，今日の学習課題や学習の進め方を電子黒板に表示する。
・　電子黒板に各班の答えとその根拠の資料を映しだし，プレゼンを行うことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（電子黒板）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（授業支援）

（14）社会〔中学校第２学年〕

１．課題の設定

「北海道ではなぜ農業が盛んになったのだろうか。」
・　複数の資料を分析し，地理的条件を適切に関連づけながら，北海道の農業が厳しい環境の中でも発展した理由について多面的，多角的に考察する。

２．学習活動

・　エキスパート班になり，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内にある資料をもとに北海道の農業を①稲作②畑作③酪農④特徴別にまとめ，北海道で発展した理由を考える。
・　ジグソー班になり，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内の資料を他の班員に説明しながら，北海道で農業が発展した理由について自分の考えを述べる。班員の意見を参考にしながら，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内の資料を添付して北海道で農業が発展したこと理由について自分の意見をデジタルワークシートにまとめ，提出する。

３．ICTを活用することの効果

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いることで，エキスパート学習で使用した複数の資料やグループで考えた内容をジグソー学習グループで簡単に共有することができる。
・　ジグソー学習グループ内で，共有した教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の資料を使いながら，自分の意見を説明できる。
・　授業のユニバーサルデザイン化を目指して，今日の学習課題や学習の進め方を電子黒板に表示する。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

―

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（電子黒板）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（授業支援，デジタルワークシート）

（15）算数〔小学校第３年・４年複式〕

１. 課題の設定

・　グラフの目盛りの大きさを変化させることで，どのように伝わる効果が変わるのかを考える。

２. 学習活動

＜３年生＞
・　好きな給食メニュー調べを学級，全校児童を対象に行い，調べた結果を表計算ソフトに入力する。
・　入力結果を１目盛りの大きさを変えた棒グラフに表し，それぞれの伝わる効果を考える。
＜４年生＞
・　過去 10 年間の新潟祭りの参加者数を調べ，表計算ソフトに入力する。
・　入力結果を１目盛りの大きさを変えた折れ線グラフに表し，それぞれの伝わる効果を考える。１目盛りの大きさとグラフで伝えたい目的とを関連付けて，自分で折れ線グラフを選択し，選択した理由を説明する。

３. ICTを活用することの効果

・　１目盛りの大きさが異なるグラフの効果を検討するときは，表計算ソフトを用いることで，グラフをかく時間が大幅に短縮し，グラフを比較する時間を確保でき，棒グラフや折れ線グラフの特徴やその用い方の理解を深めることができる。
・　また，グラフの比較から，単位の大きさに着目するという数学的な見方・考え方を働かせることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 棒グラフ，折れ線グラフの意味とかき方
- 表計算ソフトの活用スキル（基本的な操作，数値のグラフ化）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置
- 教育用コンピュータ
- ソフトウェア（表計算）

(16) 算数〔小学校第２学年〕

１. 課題の設定

・　直角二等辺三角形の色板 12 枚使って，何個の正方形を作ることができることができるかを考える。

２. 学習活動

・　教師から提示された直角二等辺三角形の色板 12 枚でできたかたちに潜む正方形の数を数える。
・　色板 12 枚を使って，もっと多くの正方形を作ることができるという見通しをもつ。
・　色板 12 枚を使って，より多くの正方形ができるように試行錯誤する。
・　できた形は，１つ１つ画像ソフトで撮影し，残していく。
・　できたものを大型テレビに提示し，全体に発表する。
・　多くの正方形を作ることができた色板の並べ方を比較し，正方形を多く作ることができるためのコツを考える。

３. ICTを活用することの効果

・　図形の学習では，試行錯誤をした作品が残りにくいが，一回一回画像として，残しておくことで自分が作った作品同士の比較が可能であり，図形の構成の仕方を考えやすくなる。
・　また，画像の比較から，図形を構成要素に着目して考えるという見方・考え方を発揮し，新たな考えや多く作るためのコツを見いだすことができる。
・　画像を大型テレビで提示したことで，発表の時間短縮が図られる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　画像を撮影するための技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（プロジェクタとスクリーンでも可）
・　教育用コンピュータ

（17）算数〔小学校第６学年〕

１．課題の設定

・　物が進む動画を複数見比べることで，速さは時間当たりに進む距離や距離当たりにかかる時間で表現できることに気付く。

２．学習活動

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の画面に映し出された，走る距離や速さが異なる３台の車が，順番に等速で進む動画を見て，どれが速いか考える。
・　繰り返し見ながら，時間を計測したり，距離を調べたりしながら，比べる方法を考える。
・　時間をそろえたり，距離をそろえたりすることで，比べられることを確かめる。

３．ICTを活用することの効果

・　一般的に「速さ」の指導を行うときは，時間や距離の数値を与え，その数値を使って計算によって速さを導かせる展開が多い。教室に「速さ」を持ち込むことが難しいために，図や数値で場面を具体的にしようとするが，子どもが実感をもつことができない。
・　物体が動く様子をアニメーションで提示し，速い（遅い）という状況を実際に見せることで，速さを教室にもちこむことができる。
・　教科書で扱う問題は，文中に書かれていない「どの時間でも物体が同じ速さで進む」前提のもとに成立している。しかし，子どもたちが生活している日常の中には，このように等速で進む場面はあまり見られない。問題場面と子どもが経験していることがつながらないことは，速さを理解しづらくしている要因であると考える。
・　実際に動くものを比較する状況をつくることで，時間や距離をそろえて比べるなど変化の特徴を見いだし，問題を解決する資質・能力の発揮につなげる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　動画を動かすための基本的なプレゼンテーションソフトの操作技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ） ・　教育用コンピュータ ・　ネットワーク ・　ソフトウェア（動画，プレゼン）

（18）数学〔中学校第３学年〕

１．課題の設定

・　根号のついた数の加法はどのように計算するのだろうか。

２．学習活動

【２時間扱いの１時間目】
・　エキスパート班（①近似値表と電卓，②数直線と a√b，③面積が２の正方形，④面積が３の正方形）をつくり，それぞれの視点から根号のついた数の加法をどのように計算したらいいのかを追究する。
・　エキスパート班の中で，考えを共有するために授業支援ソフトを利用した。
【２時間扱いの２時間目】
・　ジグソー班をつくり，エキスパート班で追究したもの（教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）に残した者を参考に）をミーティングボードに書き，説明し合いまとめる。
・　各班前後半に分かれて，他の班のミーティングボードに書かれている説明を聞きに行く。残った人は他の班に説明をしたり，質問に答えたりする。
・　ワークシートに加法についてわかったことを書き留める。わからないことを取り上げ，教師が全体に返し，わかっている生徒に説明させる。

３．ICTを活用することの効果

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いることで，エキスパート学習考えたことを共有し，より考えを深めることができる。
・　自分の考えやエキスパート班の考えを保存しておくことで，次のジグソー班で学習するときに既に学習した計算の方法と関連付けて，多くの考えを参考に考察することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ ・　ネットワーク ・　ソフトウェア（授業支援）

（19）理科〔小学校第３学年〕

１．課題の設定

・　メダカの卵を継続観察することで，生まれた卵は日がたつにつれて中の様子が変化していくことを理解することができる。

２．学習活動

・　一人一つのメダカの受精卵を毎日観察（顕微鏡の接眼レンズに直接教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のレンズを付けて撮影する）し，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のプレゼンテーションソフト等に記録していく。（基本は静止画だが，動きが見て取れる時には動画も使う）

３．ICTを活用することの効果

・　スケッチでも目の前の卵の特徴を捉えるだけであれば，有効だが，前日との比較や日数がたってからの比較などは，画像の方がより色，形，大きさなどが比較しやすい。（成長している，命あるものという実感をしやすい）**〔時間的な視点でとらえる，実体的な視点でとらえる（理科の見方・考え方）〕**
・　動画機能もあることから，メダカの卵の中の血流をとらえることができ，うまく観察できない子どもへの見本教材としても即使うことができる（大型提示装置等で活用）。
・　上手に撮影しようと顕微鏡を使う（ピントを合わせる，明るくする）ことから，顕微鏡の技能も高まり，観察などに関する技能をより身に付けることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　記録蓄積していく際の，ワープロソフト，プレゼンテーションソフト等のスキル
・　カメラ撮影機能，及び，再生機能を使いこなせること

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置
・　教育用コンピュータ（１人１台か小グループに１台）
・　ソフトウェア（ワープロ，プレゼン）

（20） 理科〔小学校第３学年〕

１. 課題の設定

・　メダカは自然界では何を食べて生きているか。

２. 学習活動

・　自然界のメダカはどのようなものを食べて生きているかを調べる場面。教科書に出ている微生物が学校の観察池にもいるかを確かめるために，「教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能」を用いての顕微鏡下の撮影を行わせ，周辺の環境と関わって生きていること理解させる。

３. ICTを活用することの効果

・　子どもは，顕微鏡下の画像を確認することでお互いにメダカの食べられそうな微生物が観察池にいることを確かめることができる。
・　これまではスケッチや言葉でしかできなかった微生物の様子を子どもの力で表現し，共有化することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　水生微小生物の名前や姿を検索し，確認すること
・　顕微鏡の操作と，撮影の操作

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型ディスプレイ）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク

（21）理科〔小学校第５学年〕

１．課題の設定

・　土地（川岸や川の形状）の様子が変化する要因を予想し，検証していく活動を通して，流れる水の速さや量が変わることで，流れる水の働き（浸食，運搬，堆積）が変わり，土地を変化させていることをとらえる。

２．学習活動

・　土地の様子が変化している写真から要因（その間に何が起こっていたか）を予想する。
・　水の量が増えた時があったのではないかという予想を基に，水が増えると何がかわるのかを話し合う。「増水すると，流れる水の働き（特に，浸食，運搬）が大きくなるのではないか」などと仮説を立てる。
・　どんな実験を行えば，考えを確かめられるか解決の方法を話し合う。
・　実験をする。（途中で増水する川と，増水せずにそのままの水量の川を二つ用意する。①流れる水の働きにより土地の変化が起きそうな場所に，それぞれ定点カメラを設置し，変化を観察する。②二つの川にそれぞれ物を流し，その速さを観察する。）
・　映像を基にした結果の交流をし，予想が妥当かを話し合う。
・　他の川でも同じようなことが起きた形跡があるかどうかを地図ソフトで検索する。

３．ICTを活用することの効果

・　増水する前の画像があることから，増水後と細かく比較できる。**比較する科学的に探究する方法を用いて考える（理科の見方・考え方）**
・　増水中の動画もあることで，増水したことで変化したことを詳しく観察できる（繰り返し再生，巻き戻し，一時停止したりして観察できる）**時間的な視点でとらえる（理科の見方・考え方）**
・　他の川でも同じようなことが起きた形跡は，川を上空から撮影しているインターネット地図検索ソフトを使うことで，地球上のどこでも流れる水が土地の変化に大きな影響を及ぼしていることをとらえることができる。（グランドキャニオンなどの地球規模で）**空間的な視点，全体と部分という視点でとらえる（理科の見方・考え方）**

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　カメラ撮影機能，及び，再生機能を使いこなせること

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置 ・　教育用コンピュータ（２人１台あるとよい，班ごとでも可） ・　ネットワーク ・　ソフトウェア（地図検索，動画）

(22) 理科〔小学校第５学年〕

１. 課題の設定

・　糸につるしたおもりが１往復する時間が変わる要因を予想し，検証していく活動を通して，おもりの重さ，振れ幅，糸の長さと，振り子の動きの変化の規則性について理解する。

２. 学習活動

・　ふりこの 1 往復にかかる時間を，10 往復の時間で測定する。（予備実験）
・　測定した数値を，用意してあった表計算ソフト上の表に入力する。
・　3 回測定し，表計算ソフト上の合計値，平均値を確認する。
・　表計算ソフト上の 10 往復÷10＝1 往復の時間を確認する。
・　振り子の１往復にかかる時間の違いは，何に関係があるかを予測する。
・　予測したことをそれぞれのグループが発表する。
・　おもりの振れ幅，おもりの重さ，糸の長さの条件で，それぞれ 3 回ずつ合計 9 回測定する（実験）。実験しながら表計算ソフトに入力する。
・　実験が終わった後に，グラフを確認して，考察をする。
・　それぞれのグループからグラフの画面を電子黒板に転送して，比較した上で結論を導き出す。

３. ICTを活用することの効果

・　この実験ではそれぞれの条件で 3 回の測定と，その合計値，平均値を求めた上で，10 往復÷10 をして 1 往復の時間を算出するが，表計算ソフトに入力し，計算を自動化することによって，考察やグループディスカッションに多くの時間を取れ，振り子の運動の規則性についてより追究できる。
・　可能であれば，数値の入力フォーマットは児童自らが作成することで，様々な学習場面，生活場面で汎用できることを理解させたい。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　ワープロソフト等の活用スキル（キーボード操作スキル等）
・　表計算ソフトの活用スキル（基本的な操作，数値のグラフ化，計算式）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（電子黒板）
- 教育用コンピュータ（キーボード付が望ましい）
- ネットワーク
- ソフトウェア（表計算）
- その他（共有フォルダ）

(23) 理科〔中学校第１学年〕

１. 課題の設定

「植物は何種類に分類することができるだろうか？また，その理由は。」
・　自然現象や実験の様子を焦点化させることで，自然現象に対する興味関心と疑問を抱かせる。
・　時間がかかる実験を短時間で見せることで，追究時間の確保につなげる。

２. 学習活動

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内の画像を根拠として，班で議論しながら植物を分類する。
・　他の班の考えを教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）で撮影する。
・　実験や観察の結果や他の班のワークシート等をカメラで撮影することで，自分の班の考えを比較したり，他の班の考えを統合したりして，生物を分類するための観点や基準を見いだし，新たな分類方法を創り出す。

３. ICTを活用することの効果

・　生徒同士の考えを短時間かつ容易に知ることができ，共通点や相違点があることを見いだしやすく，対話や思考を促すことができる。
・　他者の考えを材料として，自分の考えを見直したり，作り変えたりすることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（授業支援）
・　その他（共有フォルダ）

(24) 理科〔中学校第３学年〕

１. 課題の設定

「果物から電流が流れるのはなぜだろう。」
・　果物電池から電流が流れる様子を見せることで，興味関心を高める。

２. 学習活動

・　A,B,C の３つのエキスパートグループに分かれて，実験を行う。各グループで実験方法や資料が添付されたデジタルワークシートを参照する。
・　エキスパート学習でわかったことをデジタルワークシートにまとめる。
・　ジグソーグループを作り，エキスパート学習でわかったことについて，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を使って発表し合う。
・　ジグソーグループでわかったことを教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のデジタルワークシートにまとめる。

３. ICTを活用することの効果

・　生徒同士の考えを短時間かつ容易に知ることができ，化学変化における規則性や関係性を見いだしやすく，対話や思考を促すことができる。
・　他者の考えを材料として，自分の考えを見直したり，作り変えたりすることができ，見通しをもって実験を行うことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（授業支援，デジタルワークシート）

(25) 理科〔中学校第３学年〕

１. 課題の設定

「金星はなぜ満ち欠けするのだろう。」
・　金星が満ち欠けする理由を，模型を用いて，地球からの視点と宇宙から俯瞰した視点で考えることによって，理解することができる。

２. 学習活動

・　金星，地球，太陽の模型を配置し，満ち欠けして見える位置に教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を置き，カメラで撮影する。
・　カメラで撮影した写真を元に満ち欠けして見える時の，金星，地球，太陽の位置関係を確かめる。
・　デジタルワークシートに写真や図を取り入れて書き込みをしながら，説明を創り上げ，金星の公転と見え方を関連付けて理解する。

３. ICTを活用することの効果

・　地球からの視点で撮影したり，地球，金星，太陽を俯瞰した視点から撮影したりできるため，天体同士の位置と満ち欠けの特徴や規則性を理解しやすくなる。
・　写真をデジタルワークシートに添付し，生徒が自分の言葉で表現することで，根拠のある説明を作ることができる。
・　写真やデジタルワークシートを記録することで，探究の過程を振り返ることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　撮影した写真をデジタルワークシートに添付する。

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（授業支援，デジタルワークシート）

(26) 生活〔小学校第２学年〕

１. 課題の設定

・　伝承遊び（こま，けん玉，あやとり，お手玉）の遊び方を動画で撮影し，成長した自分に気付く。

２. 学習活動

①　自分が取り組みたい種目を決めて，自分が遊んでいる姿を動画で撮影する。
②　過去と現在の遊び方を動画で見ながら，グループで友達の成長を褒め合う。

３. ICTを活用することの効果

・　自分の遊び方を具体的にとらえることができるので，過去と現の自分を比較して考えるという見方・考え方が働き，自分の成長に気付く。映像として残っていることで，自分自身の成長を振り返りやすく，友達の頑張りもよく分かるので，具体的に褒めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ

(27) 生活〔小学校第２学年〕

１. 課題の設定

・　町探検において，商品やお店の人を写真で撮影し，自分たちの生活を支えていることに気付く。

２. 学習活動

①　グループに１台教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を渡して，町探検で自分が友達に伝えたいこと，もの，人を撮影する。
②　振り返りの際に，大型テレビに映しながら話し合う。

３. ICTを活用することの効果

・　これまで使っていた子どもの絵などでの交流とは違い，実物をそのまま見ることができるので，地域の場所やそこで働いている人々がよく分かり，友達に伝えたいことを分かりやすく伝えることができる。このことにより，自分の気付きと友達の気付きを比較して考えるという見方・考え方が働き，次の活動への意欲をもったり，自分たちの生活を支えている事実に気付いたりする。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　撮影許可のお願いの仕方

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ（グループ１台）

(28) 音楽〔小学校第５学年〕

１. 課題の設定

題材名「ホームページのＢＧＭをつくろうー和音の音で旋律づくりー」

・　附属新潟小学校のイメージに合う和音進行をグループで考え，和音の構成音を手掛かりにしながらリズムに音を当てはめて，旋律をつくる場面。イメージに合う和音を自分たちで選び，自分たちで和音進行を考えることができるようにするために，音楽制作支援ソフトを活用する。

＜学習課題＞
◎　旋律をつくるために，イメージに合う和音進行をどうやって考えればよいだろうか。

２. 学習活動

＜ステップ１＞
・　グループで，附属新潟小学校からイメージした言葉を４つ決め，その言葉から４小節のリズムをつくる。
＜ステップ２＞
・　グループで，音楽制作支援ソフトで和音を演奏しながら，附属新潟小学校のイメージに合う４小節の和音進行を考える。
＜ステップ３＞
・　イメージとその和音を選んだ理由とを関連させながら，考えた和音進行について学習カードに記入する。
＜ステップ４＞
・　音楽制作支援ソフトで和音を演奏しながら，それに合わせて鍵盤ハーモニカで和音の構成音をいろいろと試し弾きして（考えたリズムに音を当てはめて）旋律を考え，旋律をし上げていく。
＜ステップ５＞
・　グループ内で分担してつくった旋律をつなぎ合わせて，４小節の旋律を完成させる。

3. ICTを活用することの効果

・　使用する音楽制作支援ソフトは，指で画面をタッチするだけで，様々な和音を演奏することができる機能があり，この機能を使うことによって，和音の連結による音楽の響きを感じ取り，感覚的にその変化のよさや美しさを味わうことができ，いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴を理解しやすくなる。
・　子どもは，音楽制作支援ソフトで和音を演奏して和音進行を考え，その和音の響きを感じ取りながら，和音の響きや構成音を手掛かりにしてイメージに合う旋律をつくれ，音楽づくりの様々な発想を得ることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　音楽制作支援ソフトの活用スキル
・　和音とコードネームの理解
・　鍵盤ハーモニカ等，楽器の演奏スキル

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（音楽制作支援）
・　その他（教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）とつなげるスピーカー及びケーブル，イヤホン）

（29）音楽〔小学校第５学年〕

１．課題の設定

＜リコーダーの技能向上の演奏練習＞
・　卒業式で演奏するリコーダーの技能を向上させるために，技能が高い児童の演奏や，音楽専科教諭の手本映像を視聴しながら練習して技能を高めることができる。

２．学習活動

・　卒業式で演奏する曲を全体で通奏する。
・　個別で苦手な箇所を練習する。その際，得意な児童の演奏を動画撮影して，練習に生かす。
・　自宅での練習では，得意な児童の演奏や音楽専科教諭の視聴しながら練習をする。
・　個別での練習を生かして，全体で通奏する。

３．ICTを活用することの効果

・　技能が高い児童の演奏を教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の動画撮影機能を活用して撮影して参考しながら演奏することで，技能を高めることができる。
・　音楽専科教諭の手本映像を教室や家庭で視聴しながら練習（反転学習，家庭学習）することで，技能を高めることができる。また，曲の特徴にふさわしい表現を身に付けやすくなる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ（キーボード付が望ましい）
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（動画）
・　その他（共有フォルダ）

(30) 音楽〔中学校第２学年〕

１. 課題の設定

「日本の歌の美しさを求めて「花」（武島羽衣作詞/滝廉太郎作曲）」
・　歌うことや旋律やリズムの変化，を楽譜から読み取ることを通して，曲にふさわしい表現にするために意図をもち，表現することができる。

２. 学習活動

・　デジタルワークシート上の楽譜に自分の考えを書き込みながら，プロジェクターで投影し，全体に自分の考えを知らせることで，曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。
・　自分が気持ちよく歌える声の高さを見つけ，自分の声と向き合う。
・　曲にふさわしい表現方法を考え，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラで自撮りしながら歌う。

３. ICTを活用することの効果

・　プロジェクターで投影したことで，紙の五線譜を見るよりも，音の高さが目に見えるので視覚的に捉えやすい。
・　自分のワークシートをすぐに投影することができるので，自分の考えを容易に伝えたり説明したりすることができる。
・　カメラで撮影することで，発声・発音だけでなく，身体の使い方の技能も確認することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（プロジェクタ，スクリーン）
・　教育用コンピュータ

（31）図画工作〔小学校第２年〕

１．課題の設定

「造形遊びの鑑賞で使う事例」
・　造形遊びで表したものについて，自他の「こだわりポイント」や「発想の面白さやよさ」を見付け，写真や動画を基に伝えることができる。

２．学習活動

・　１人１０本ずつのストローを用いて，できることを探す。
・　できたことの中から「並べる」「折る」「つなげる」という行為によって，自分の感じたことから，表したいものを考える。
・　使いたい分のストローを使って，「並べる」「折る」「つなげる」という行為をしながら，表したいものをつくる。
・　一通り表したものを４人グループになって鑑賞する。その際，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の動画機能を用いて，「どんなものになったか」「どんなことをしたらできたか」「工夫した点はどこか」を互いに伝え合い，自分の見方や感じ方を広げる。

３．ICTを活用することの効果

① 教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の画面がフレームとなり，見たいところを焦点付けて鑑賞することができること。
② 撮影した動画には，作品の解説が含まれており，鑑賞しながら感じたことを繰り返し再生し見直せること。
③ 複数の教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて，写真や動画を比較することができ，表し方の違いや共通点に気付きやすくなること。
・　これら３つの効果により，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いた鑑賞は，「形や色に着目する」見方・考え方が働きやすくなり，自他の「こだわり」「面白さやよさ」に気付きを広げやすくなる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　写真や動画で撮影する技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ（４人に１～２台）

(32) 図画工作〔小学校第２年〕

１. 課題の設定

「絵や立体，工作で表す活動の鑑賞で使う事例」
・　自他の表し方のよさや面白さを知り，自分の表現にも取り入れて表す。

２. 学習活動

・　１年間の思い出の中から「動き・音・気持ち」が入っている体験を選び，絵に表すという目的をもつ。
・　どんな体験を表すか，どのように表すかを考える。
・　表したい体験の中の，自分の様子をいろいろな形や色を考えたりしながら，絵に表す。
・　ドリッピング，スパッタリング，ブラシ，スタンプ等のモダンテクニックを用いて，表したい体験の「動き・音・気持ち」を表す。
・　途中の作品の製作過程を鑑賞する。

※　授業者は，製作する子どもを教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）で撮影する。その際，子どもの「行為」と描画材や材料の「効果」が分かるように撮影する。
例：ドリッピングで，筆を小刻みにリズムをとって色を付けている行為（小刻みに色を付けると，はずむ感じが出るという効果）
・　鑑賞から得た気付きを基に，自分の作品を仕上げる。

３. ICTを活用することの効果

①　製作に没頭していて気付かなかった，他者の表現過程の「行為」や「効果」を見ることができ，自分の見方や感じ方を広げられる。
②　製作過程の子どもを動画で撮影するため，そのときその子どもが感じていたコメントを共有することができる。
・　これら２点の効果により，「自分のイメージと表し方とを関係付ける」という見方・考え方が働きやすくなり，新たな表し方を取り入れて工夫して表すことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　写真や動画で撮影する技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ） ・　教育用コンピュータ（教員用）

(33) 図画工作〔小学校第３・４年〕

1. 課題の設定

第３・４学年　題材名「きっとここにいるよ！　～学校の住人～」
・　学校の様々な場所の様子に対して，感性や想像力を働かせ，形や色などを造形的な視点でとらえるという見方・考え方で，そこに住んでいると面白いと思う「住人」を紙粘土などでつくる。

2. 学習活動

・　学校の様々な場所を見て回りながら，それぞれの場所に隠れていそうな「住人」について想像する。
・　場所の様子に合わせて，形や色を考えながら紙粘土で「住人」をつくる。
・　できた「住人」を場所の様子に合わせて設置し，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能で撮影し，撮影した画像を，プレゼンテーションソフトなどを使い，台詞などをつけたりする。
・　プロジェクターに映し出し，「住人」を紹介，鑑賞し合う。

3. ICTを活用することの効果

・　学級全員分の「住人（作品）」を画像で紹介，鑑賞し合うことで，いろいろな表し方などをより感じ取りやすくなる。
・　学校の様々な場所の様子に対して，感性や想像力を働かせ，形や色などを造形的な視点で，それぞれの作品を鑑賞でき，自分の見方や感じ方を広げられる。
・　紹介する内容として，台詞をつけることで，「住人」をつくった思いやどういった「住人」なのか様子などが伝わりやすくなり，造形的なよさや面白さを感じることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　場所の様子に合った「住人」の形や色を工夫することができる。

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（プロジェクタ，スクリーン）
・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（プレゼン）

（34）家庭〔小学校第６学年〕

１．課題の設定

第６学年　題材名「クリーン作戦」
・　私たちが生活している学校や住まいのよごれや場所に合った掃除の仕方を「快適」「安全」「安心」の視点で問題をとらえるという見方・考え方を働かせて，気持ちよく生活するための解決策を工夫する。

２．学習活動

・　学校のよごれを調べ，場所によるよごれの種類やどこによごれが多いのかをみつける。
・　よごれをそのままにしておくとどうなるのかを調べる。
・　いままでの掃除の仕方などを振り返り，気持ちよく生活できるように解決策を考える。
・　上の３点について教育用コンピュータを活用してまとめ，グループごとにプレゼンをする。
・　プレゼンで共有したことを基に，計画を立て実際の活動（学校をきれいにする「クリーン作戦」）に生かす。
・　学校での活動を家での実践に生かし，清掃の仕方の理解を深め，適切にできようにする。

３．ICTを活用することの効果

・　自分たちのグループで調べたことや考えた解決策をプレゼンで発表することで，生活における「快適」「安全」「安心」を学級で共有し，計画や実際の活動（学校をきれいにする「クリーン作戦」）に適切に生かすことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　よごれに合わせた掃除の仕方

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（プロジェクタ，スクリーン） ・　教育用コンピュータ ・　ソフトウェア（プレゼン）

（35）家庭〔小学校第５学年〕

１．課題の設定

第５学年　題材名「『ゆでる』の極意　～卵や野菜をゆでよう～」
・　「ゆでる」ことで変わる食品の変化や美味しさを卵や野菜をゆでて確かめる。

２．学習活動

・　卵のゆで時間を変えながら，ゆで時間による固まり具合を調べて，確かめる。
・　野菜の種類によってゆで方の違いやゆで時間の違いを調べて，材料に適したゆで方を確かめる。

３．ICTを活用することの効果

・　調理過程や食品を画像や画面メモで記録し，何度も見直すことができる。
・　記録したことと学習プリントを行き来しつついろいろな食品の様子や調理方法を比較しながらまとめることで，材料に応じた調理方法の理解を深めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　調理器具の使い方や食品の扱い方など

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（記録蓄積）

（36）技術・家庭〔中学校第２学年〕

１. 課題の設定

「おいしくて健康によいみそ汁を作ろう。」
- １日に摂っている野菜の量を年齢別・国別にあらわされているグラフを読み取って「野菜を毎日 350 グラムとることがなぜ大切か」を考え，理解する。
- 地元の野菜や自分に必要な野菜を使って味噌汁をつくるにはどうすればよいかを考える。

２. 学習活動

- 野菜の栄養や効果について調べ，中学生の１日に必要な食品の種類と概量を理解する。
- 味噌汁に入れる野菜の栄養素を合計するとそれぞれどれくらいになるかをレーダーチャートに表す。
- 自分たちのグループの考えをホワイトボードに書き，それを他の班と交流させ，健康によい味噌汁を追究していく。
- 味噌汁（おおすか汁）をつくるときの方法について調べる。

３. ICTを活用することの効果

- レーダーチャートに味噌汁（おおすか汁）に入れる野菜の栄養素の合計を出すことで，計算が自動化され，追究の時間を確保できる。
- 事前に撮った教師のだしのとり方などの動画の師範をみて，自分たちの方法と比較する。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- ワープロソフト等の活用スキル（キーボード操作スキル等）
- 表計算ソフトの活用スキル（基本的な操作，数値のグラフ化，計算式）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 教育用コンピュータ（４人１台）
- ソフトウェア（表計算，動画）

(37) 体育〔小学校第６学年〕

１. 課題の設定

・　技ができるようになるためには，体のどこをどのように動かせばよいのか。

２. 学習活動

・　できない鉄棒運動の技ができるようになるために，自分の動きと手本の動きの相違点を考える。
・　自分の動きの問題点や改善点を見いだすために，２つの映像を並べたり，重ねたりして同時再生できる動画再生ソフトを活用し，自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫する。

３. ICTを活用することの効果

・　「鉄棒運動の特性に応じた体の部位に着目する」という体育科の見方・考え方を働かせることができる。
・　自分の映像と手本の映像とを比較し，「自己の能力に適した課題に気付く力」という体育科の資質・能力（思考力）を育成することができる。
・　課題に気付いた子どもは，「課題を解決するための練習の場を工夫する力」という体育科の資質・能力（思考力）を育成することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　動画再生ソフトを使いこなす技能
・　どの位置から撮影すると比較しやすいかという知識

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（動画再生）

（38）体育〔小学校第１学年〕

１．課題の設定

・　海の生き物を相手にうまく伝えるには，どのように動けばよいのだろうか。

２．学習活動

・　海の生き物の特徴を捉え，全身で表現して相手に伝えるために，動きを工夫する。
・　自分たちの動きを確認・修正する。

３．ICTを活用することの効果

・　「体の部位に着目する」という体育科の見方・考え方を働かせることができる。
・　自分の映像と海の生き物の映像とを比較し，「自己の表現方法の課題に気付く力」という体育科の資質・能力（思考力）を育成することができる。
・　課題に気付いた子どもは，自分たちの動きを繰り返し撮影し，「課題を解決するための表現の仕方を工夫する力」という体育科の資質・能力（思考力）を育成することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能を使いこなす技能
・　どの位置から撮影すると比較しやすいかという知識

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ（カメラ機能）

(39) 保健体育〔中学校第２学年〕

１. 課題の設定

・　仲間と連携した動きでマークをはずし，空いた空間からチームの特色を生かした攻撃パターンをつくろう。

２. 学習活動

・　カット，スクリーンでマークをはずし，空いた空間から攻撃する例を VTR で視聴する。
・　チームで考えた攻撃パターンを練習する。
・　ゲームで練習した攻撃の修正ポイントを遅延再生画面を見ながら検証し，自己の課題を発見する。
・　ゲームを行った相手チームと自分たちが考えた攻撃パターンを紹介しあう。

３. ICTを活用することの効果

・　VTR 鑑賞で，自分たちの目指すイメージをすぐに持つことができる。
・　遅延 VTR で，撮影や再生の時間を省略することができ，合理的な解決に向けて運動に取り組める。
・　上記の２点により，攻撃パターンを考えて練習し，検証までを１時間の授業で行うことができる。
・　他のチームの考えた攻撃パターンを映像で分かりやすく紹介しあうことができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ，プロジェクタ，スクリーン）
・　教育用コンピュータ（グループに１台）
・　ソフトウェア（DVD，遅延再生）

（40）道徳教育〔小学校第５学年〕

１．課題の設定

・　「友情」についての話し合いを通して，友達のためを考えたら，「相手が成長できるようにしてあげることが大切だ」と気付き，よりよい行為を見いだそうと考えることができる。

２．学習活動

出典：きみがいちばんひかるとき５年（光村図書）「移動教室の夜に」
・　レゴブロックで再現された場を見ながら教材分の内容を知る。（場の状況は，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能を使い大型テレビに映し出されている）
・　「この場合，自分だったらどうするか」と考え，友達と交流する。
・　自分の考えと友達の考えの違いから，「本当の友情とは何か」を考える。
・　「友達のためにどうすることがよいのか」考え，友達と交流する。
・　最終的な自分の考えを記述する。
・　本時の学びを振り返る。

３．ICTを活用することの効果

・　読み物教材を用いて道徳の授業を行う際，子どもがいかに場面の状況を同様に把握したりイメージしたりできるかが重要である。なぜなら，道徳では，状況把握を基にした道徳的価値についての対話が最も重要だからである。子どもの人数が多い学級では，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能を使用し，大型テレビに映し出すことで，全員が同様に場面の状況を把握することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

―

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ（教員用）

（41）外国語〔小学校第５・６学年〕

１．課題の設定

・　Where do you want to go? /I want to go to～. 等の表現を基に，自分の行きたい（行ってみたい）国を紹介する

２．学習活動

***太文字＝ICT 活用場面**

・　インターネットや補助教材を用いて，**各国にある世界遺産や国旗・地理的な位置等を知り**，外国の魅力について学習する。

・　補助教材の音声やコミュニケーション場面をモデルに世界遺産や国名，**各国の主な情報や Where do you want to go? /I want to go to ～. 等英語表現について慣れ親しむ**。

【設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する】

・　自分の行きたい（行ってみたい）国を友達や ALT 等に紹介するという活動を理解する。

【目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる】

・　自分の行きたい（行ってみたい）国の魅力や情報を伝えるための**英語表現を考える**。

【対話的な学びとなる目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う】

・　友達や ALT 等に**自分の行きたい国を紹介する**。

*伝える相手を工夫する場合（校外の友達や交流校，海外の小学生等）は，**テレビ電話を使ってコミュニケーションを図る**。

【言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで，学んだことの意味付けを行ったり，既得の知識や経験と，新たに得られた知識を言語活動へつなげ，思考力・判断力・表現力等を高めていったりする】

・　活動後，コミュニケーション活動を動画等で**何が出来て，何が分かったかについて振り返る**。

３．ICTを活用することの効果

【見方・考え方を働かせるために】

・　「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考え等を形成，整理，再構築すること」

① 外国語やその背景にある文化を社会や世界，他者との関わりに着目して捉えるために。

・　世界遺産や国旗，地理的な位置等，その国の基本情報を捉えるためにICT（インターネットや補助教材）を活用することで，視覚的かつ具体的に知ることができ，行きたい（行ってみたい）思いをより膨らませることができる。

② 情報や自分の考え等を形成，整理，再構築するために。

・　情報や自分の考え等をより伝わるようにするために，妥当な英語表現を考える際，英語で書くことが未成熟な小学生にとって種々のICTアプリケーションソフト（付箋など）は，有効な補助になる【見通し】。

・　自分の伝えたい・知りたい内容をコミュニケーション活動で伝え合う際，既有の英語が少ない小学生にとって，ICTを用いて写真を提示したり，アプリケーションソフトによる情報を提示したりすることは，有効な手段になり得る。

③ より魅力的なコミュニケーション活動にするために。

・　コミュニケーション活動をよりオーセンティックにしたり，魅力的なものにしたりするために，テレビ電話等を用いてより必然性をもたせることができる。

④ 目的・場面・状況等に応じてコミュニケーションが図れたことを自覚するために。

・　コミュニケーション活動の際は，自分がどのような姿であったか意識することは難しい。そのため，コミュニケーション活動を動画撮影し，振り返ることで，自分のコミュニケーション活動がどのようなものであったか，またそこから何ができて，分かったのかを自覚しやすい。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 情報モラルに対する知識
- インターネット検索技能
- 各種アプリケーションソフトの活用知識と技能（付箋，翻訳，プレゼンテーション等）
- 動画撮影技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（大型テレビ）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（付箋，翻訳，プレゼンテーション）

（42）外国語〔中学校第３学年〕

１．課題の設定

・　自分の一日の行動を英文にして，それをペアで聞きあい，お互いアドバイスをしたり，相手の表現を参考にしたりしながら，より具体的に表現することができるようになる。

２．学習活動

・　自分の一日の行動を表現した英作文を作り，グラフとして描く。
・　担任の一日の行動を表現した英作文をグラフと共に説明している映像を見る。
・　作った英文の中から自分の好きな曜日を選び，その一日の行動をペアで伝え合う。教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）でお互いのスピーチを撮影する。
・　ペアでお互いのスピーチを視聴し，アドバイスをし合う。
・　アドバイスを参考に，表現力を高める。
・　他のペアの動画を見て，参考にして英文を書き足す。

３．ICTを活用することの効果

・　スピーチの際の声の大きさやトーン，早さや目線など客観的に自分のスピーチを見ることができる。
・　お互いにアドバイスをし合うことでより関わりを増やし，表現力を高めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）のカメラ機能
・　フォルダの新規作成と保存

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（プロジェクタ，スクリーン）
・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（自作映像教材）

(43) 総合的な学習の時間〔小学校第６学年〕

1. 課題の設定

・　地元の観光の課題を調査し，活性化に取り組もう

2. 学習活動

・　インターネットで，地元の観光の課題を調べる。
・　観光の課題の方法をグループ毎に考え，プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションスライドを作成する。
・　課題解決の方法として，実際に町に出てアンケート調査を行う。そのために，アンケート用紙をワープロソフトで作成する。
・　採ったアンケートを表計算ソフトで集計し，グラフ化する。
・　グループ間でプレゼンテーションをし合い，解決策をアドバイスし合う。
・　もらったアドバイスを基に，他者と協働して解決策を改善し，実行する。
・　単元を通して，デジタルマインドマップ等の思考ツールで情報を整理する。
・　集めた情報をデジタルポートフォリオとして整理する。
・　単元の終末に，デジタルポートフォリオや思考を整理したデジタルマインドマップを用いて，学習による自己の考え方の変容や有効だった学び方を自覚させるための振り返りを行い，1200 字のレポートにまとめる。

3. ICTを活用することの効果

・　探究のサイクル「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を通して，情報を可視化しながら探究できるので，探究する「見方・考え方」を働かせやすくなり，探究の意欲が持続する上，深い学びにつながる。
・　「情報の収集」過程では，インターネットを適切かつ効果的に活用し，最新の統計データや，実社会の事例等を集めることができる。また，情報収集の際に，情報の信頼性・妥当性を検証させることで，情報活用能力が高まる。
・　「整理・分析」過程では，デジタルマインドマップを活用することで，紙のマインドマップに比べて思考を整理しやすい上に，その情報をデジタルポートフォリオにすることで，振り返りにも活用できる。

・　「整理・分析」過程では，写真や動画などで収集したたくさんの情報から，必要な情報を絞り込むことができる。デジタルデータのため，処理がしやすく，更にプレゼンテーションやデジタルリーフレットなど，まとめる際にもシームレスに活用できる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　タイピングの基礎的なスキル（学習活動を通して高められる）
・　各種ソフトの操作技能（学習活動を通して身に付けられる）
・　検索のスキル（学習活動を通して身に付けられる）

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（デジタル思考ツール，ワープロ，表計算，プレゼン）
・　その他（共有フォルダ）

（44）総合的な学習の時間〔小学校第６学年〕

１．課題の設定

・　ロボットは私たちの暮らしとどのようにかかわっているのだろうか
　―プログラミング体験を通して考えようー

２．学習活動

・　実社会でロボットがどのように活用されているか，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて，インターネットから情報を集めてグループ毎にプレゼンテーションにまとめて伝え合う。
・　人型ロボットをプログラミングで動かす体験活動を行う。
・　ロボットの未来について，開発者のお話を聞き，自分の考えを意見文にまとめる。

３．ICTを活用することの効果

・　「情報の収集」過程では，インターネットを適切かつ効果的に活用し，実社会でロボットがどのように活用されているかの最新情報を収集できる。これらの情報は，最新の情報のため，本からは情報収集することが難しい。
・　実際に，ロボットを動かすプログラミング活動をすることで，実社会で活用されているロボットの仕組みを楽しみながら理解することができる。また，探究の過程の中に，プログラミングを位置付けることで，テクノロジーと自分の生活の関係付けて捉えることができる。自分のこれからの生き方と関連付けて問い続けることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　タイピングの基礎的なスキル（学習活動を通して高められる）
・　各種アプリケーションソフトの操作技能（学習活動を通して身に付けられる）
・　検索のスキル（学習活動を通して身に付けられる）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置（大型テレビ）
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（プログラミング，デジタル思考ツール，プレゼン）
- その他（共有フォルダ）

（45）総合的な学習の時間〔小学校第６学年〕

１．課題の設定

・　１００人の村の財政を編成しよう。

２．学習活動

・　財政の専門家をゲストティーチャーに招き，税金を集める意図や税金の種類などについてお話を聞く。
・　「日本村」の予算をつくろうと投げ掛け，人口が 100 人，予算 100 万円という条件を示し，表計算ソフトを用いて，グループで予算編成のシミュレーションをする。その際，別の教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）でデジタル思考ツールでの考えを整理しながら話し合う。
・　電子黒板に編成した財政の表やグラフを投影しながら，プレゼンテーションする場面を設定し，お互いの考えを交流する。

３．ICTを活用することの効果

・　配付資料から，詳しい条件を読み取り，項目毎に前年度よりも多くするか，そのままにするか，減らすかを考える場面で，表計算ソフトの数値を操作し，グラフモードに変えて，視覚的にバランスを検討することができる。
・　電子黒板に投影しながら，考えを発表し合うことで，自分たちの予算編成の意図と比較しながら考えを深めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　タイピングの基礎的なスキル（学習活動を通して高められる）
・　表計算ソフトの操作技能（学習活動を通して身に付けられる）

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ（グループ２台）
・　ソフトウェア（デジタル思考ツール，表計算）

（46）総合的な学習の時間〔小学校第６学年〕

１．課題の設定

・　AI・ロボットは，少子高齢化時代の介護に有効だろうか

２．学習活動

・　複数の動画から，少子高齢化の未来予測や介護の現状について知り，学習問題を設定する。
・　グループに分かれて，インターネットを用いて調査し，プレゼンテーションにまとめて発表し合う。
・　介護のプロフェッショナルの仕事ぶりが分かる動画から，介護で大切なことを考える。
・　介護現場を訪問し，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて，介護ロボットがどのように使われているか情報収集したり，介護ロボットの操作体験，利用者との交流をする。
・　今後重視すべき政策は，「介護ロボット普及のための支援」と「介護を充実させるための他の支援」とどちらか問い，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて資料を作成し，作成した資料を大型テレビに映しながらディベートに取り組む。
・　介護ロボットの開発者の話を聞き，最終的な自分の考えを意見文にまとめる。

３．ICTを活用することの効果

・　探究のサイクル「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を通して，情報を可視化しながら探究できるので，探究の意欲が持続する上，深い学びにつながる。
・　「課題設定」の過程では，NHK 資料動画「10minBOX」「クローズアップ現代」「プロフェッショナル仕事の流儀」等の実社会の問題についてまとまったデジタルコンテンツを視聴することで，介護問題とテクノロジーの関係を関係付けながら，自分自身の生き方と関連付けて課題を設定することができる。
・　「情報の収集」過程では，インターネットを適切かつ効果的に活用し，最新の統計データや，実社会の事例等を集めることができる。また，情報収集の際，情報の信頼性・妥当性を検証させることで，情報活用能力が高まる。

・　「整理・分析」過程では，デジタル思考ツールを活用することで，紙の思考ツールに比べて思考を整理しやすい上に，その情報をデジタルポートフォリオにすることで，振り返りにも活用できる。
・　「整理・分析」過程では，写真や動画などで収集したたくさんの情報から，必要な情報を絞り込むことができる。
・　ディベートの資料として，ネットでのグラフ等の資料を参照させながら，自分の説得資料を作成することで，国語，算数や社会科で育成した資質・能力を発揮することができる。
・　デジタル思考ツールやプレゼンテーション等，作成したデジタルポートフォリオを用いて，単元終末に振り返りをさせることで，介護とテクノロジーについて，多様な角度から俯瞰して捉え，実社会の文脈や自己の生き方と関係付けて問い続ける（今後，介護やテクノロジーとどのようにかかわっていくかを考え続ける）ことができるようになる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　タイピングの基礎的なスキル（学習活動を通して高められる）
・　各種ソフトの操作技能（学習活動を通して身に付けられる）
・　検索のスキル（学習活動を通して身に付けられる）
・　取材時におけるマナー（学習活動を通して身に付けられる）

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（デジタル思考ツール，ワープロ，表計算，プレゼン）
・　その他（共有フォルダ）

(47) 総合的な学習の時間〔小学校第６学年〕

１. 課題の設定

＜日光移動教室ガイドブックを作ろう＞
・　日光移動教室で訪れる場所には，人々が自然や文化遺産を守り抜いてきた文化がある。移動教室での取材や，その後のリーフレット作成，5 年生への発表を通して，人々の思いや願いを理解すると共に，5 年生が期待感をもって来年の移動教室へ向かおうとさせる表現力を育成する。

２. 学習活動

・　日光の歴史や自然，文化遺産について学習し，興味をもった内容をグループで話し合い，ガイドブックの題名（テーマ）を決める。(課題設定)
・　どのようなガイドブックにするかについて，旅行雑誌，ガイドブック，歴史雑誌などの紙メディアがどのような構成や記事になっているかを分析し，デザインやレイアウト，取材する内容を決める。(メディア分析)
・　取材する内容が，インターネットや書籍等のメディアで書けるものか，あるいは取材しなければならないものかを議論し，紙面構成を決める。(情報処理，表現)
・　デザインやレイアウトにしたがって，インターネットや書籍，電話取材などの調査を進め，ガイドブックを作成する。(情報収集，判断，表現)
・　日光移動教室で取材をする。写真を撮影したり，録音したりすることがあれば，趣旨と表現方法を説明した上で許可を取る。(情報判断)
・　取材した内容を整理して，ガイドブックを作成する。(情報判断，表現)
・　作成されたガイドブックに，表現としてふさわしくないものがあるかをチェックした上で，他のグループや先生に評価してもらい，修正を加えて製本する。(情報判断，表現)
・　5 年生にガイドブックの概要を説明するためのプレゼンテーションを作成し，クラスで予備発表をして，プレゼンテーションの内容やデザインについて話し合い，指摘された箇所を修正する。(情報処理，表現)

3. ICTを活用することの効果

- 作成したガイドブックの評価と修正を随時行うため，ガイドブックを作成できるソフトを活用することで，より優れた内容とデザインに高めることができる。
- 取材や調査の過程で表計算ソフトを活用して集計することにより，より多くの取材や調査の時間を確保することができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

- 表計算ソフト等の活用スキル（基本的な操作，集計）

〔学習活動に必要なICT環境〕

- 大型提示装置
- 教育用コンピュータ
- ネットワーク
- ソフトウェア（ガイドブック作成，表計算，プレゼン）

（48）総合的な学習の時間〔中学校第３学年〕

１．課題の設定

・　修学旅行で訪問する寺社仏閣を調べ，訪問ルートを考えよう。

２．学習活動

・　１人１台の教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を配付する。
・　班で設定テーマに合わせた寺社仏閣をインターネットで探し，それぞれの寺社仏閣についてホームページ上で調べる。
・　インターネット地図検索ソフトを利用し，寺社仏閣を巡る際の効率的な訪問ルートと交通手段を考える。

３．ICTを活用することの効果

・　寺社仏閣の調べ学習を容易に行うことができる。
・　交通手段や距離を容易に調べることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク

（49）総合的な学習の時間〔中学校第１学年〕

１．課題の設定

・　ハザードマップから危険を予測し，登下校路の危険マップ作りをしよう。

２．学習活動

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）内のハザードマップを参照しながら，災害が生じたときに学区内にどれくらいの被害が想定されるのかを知る。
・　ハザードマップを元に，登下校路の危険マップ作りを行う。

３．ICTを活用することの効果

・　必要な情報に即座にアクセスすることができる。
・　マッピングすることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

―

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　その他（共有フォルダ）

(50) 特別活動〔小学校第６学年〕

１. 課題の設定

・　自分に合ったがんを予防する生活習慣を見いだす。

２. 学習活動

・　がんの罹患率，がんの発症メカニズムについての説明を聞き理解する。
・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用い，がんを予防する生活習慣について班の中で分担し，調べる。
・　調べて分かったことを基にプレゼンテーションソフトにまとめ，班の中で発表し合う。
・　自分の生活習慣を振り返り，自分に合ったがんを予防する生活習慣を考える。

３. ICTを活用することの効果

・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）からインターネット検索をして調べることで，正確で根拠あるデータやグラフを引用したり，イラストや写真を使ったりして，分かりやすくプレゼンにまとめることが容易にできる。
・　教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）の画面を見せながら発表することができる。画面を見比べることができるので，調べたことの共通点や相違点を見付けやすい。
・　プレゼンテーション能力を高めることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

・　インターネット検索に関する知識・技能
・　プレゼンテーションの作り方に関する知識・技能

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　教育用コンピュータ
・　ネットワーク
・　ソフトウェア（プレゼン）
・　その他（共有フォルダ）

(51) 特別支援教育等〔中学校第１～３学年〕

1. 課題の設定

【生活単元】
・　日常生活の買い物で，現金を適切に出せたり，お釣りを正しく数えて受け取ったりすることができることで，より良い社会生活を営もうとする意欲をもたせる。

2. 学習活動

・　生徒に 1000 円分のすべての金種が入った財布をわたし，教室においた商品の値札を見ながら自由に購入させる。
・　レジにもっていく前に電卓や教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を使用して正確に支払う代金とお釣りを計算する。
・　店員役の生徒は，教育用コンピュータ（タブレットＰＣ）を用いて計算することで間違えることなくお釣りを渡す。
・　買い物の様子を動画で撮影し，１人ずつ気をつけたことを発表する。

3. ICTを活用することの効果

・　間違いがないように計算ができる。
・　買い物の様子を動画で客観的に確認できることができる。
・　買い物の見本として動画を流してわかりやすく伝えることができる。

〔学習活動を実現するためのその他の知識及び技能等〕

ー

〔学習活動に必要なICT環境〕

・　大型提示装置（大型テレビ）
・　教育用コンピュータ
・　ソフトウェア（動画）

参　考

学校におけるＩＣＴ環境整備の在り方に関する有識者会議
効果的なＩＣＴ活用検討チームの設置について

平成 29 年 2 月 20 日
学校における ICT 環境整備の在り方に関する有識者会議決定

１．趣旨

次期学習指導要領において求められる資質・能力の育成等に資する効果的なＩＣＴ活用について意見交換等を行うため、「学校におけるＩＣＴ環境整備の在り方に関する有識者会議（以下「有識者会議」という。）のもとに「効果的なＩＣＴ活用検討チーム」（以下「検討チーム」という。）を設置する。

２．検討事項

(1) 次期学習指導要領において求められる資質・能力の育成等に資する効果的なＩＣＴ活用について
(2) (1)を踏まえた、必要なＩＣＴ環境の洗い出しについて
(3) その他

３．実施方法

(1) 検討チームの委員は別紙１の通りとする。
(2) 検討チームは、必要に応じ、別紙２の「協力校」に協力を求めるほか、関係者の意見等を聴くことができるものとする。
(3) 検討チームに係る意見交換は原則として非公開とする。

※検討に当たっては、有識者会議と緊密に連携を行う。

４．実施期間

検討チームは、「２．検討事項」に係る意見交換が終了したときに廃止する。

５．その他

検討チームに関する庶務は、生涯学習政策局情報教育課において処理する。

別紙１

学校における ICT 環境整備の在り方に関する有識者会議
効果的な ICT 活用事例検討チーム

（五十音順　敬称略）
（平成 29 年 2 月 20 日現在）

	片山　敏郎	新潟大学教育学部附属新潟小学校教諭
◎	黒上　晴夫	関西大学総合情報学部教授
	佐藤　和紀	杉並区立高井戸東小学校主任教諭
○	高橋　純	東京学芸大学教育学部准教授
	益川　弘如	静岡大学学術院教育学領域准教授

（◎ 主査、○ 主査代理）

別紙２

学校における ICT 環境整備の在り方に関する有識者会議
効果的な ICT 活用事例検討チーム協力校

杉並区立高井戸東小学校

新潟大学教育学部附属新潟小学校

掛川市立大須賀中学校

別添資料１

小学校学習指導要領（案）【抜粋】

第２章　各教科

第１節　国語

【】内は資料２「２.各論」の番号と対応

〔第１学年及び第２学年〕

２ 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

イ　音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。

ウ　長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。

エ　第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。

オ　身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。【(1)】

カ　文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

キ　丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。

ク　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。

イ　長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。

ウ　書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(ｱ) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。

(ｲ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書くこと。

(ｳ) 点画相互の接し方や交わり方，長短や方向などに注意して，文字を正しく書くこと。

エ　読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育成するため，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，

伝えたいことを明確にすること。【(2)】

イ　自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文の続き方を確かめたりすること。

オ　文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。【(2)】

イ　日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。

ウ　簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

〔第３学年及び第４学年〕

２ 内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

イ　相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。【(3)】

ウ　話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。

エ　必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。

オ　目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。【(3)】

イ　質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。

ウ　互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育成するため，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。

イ　書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。

ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。【(3)】

エ　間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整

えること。

オ　書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。【(3)】

イ　行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。

ウ　詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育成するため，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。【(3)】

イ　登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。

ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。

エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

オ　文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。【(3)】

カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。【(3)】

イ　詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ　学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。

〔第５学年及び第６学年〕

２ 内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育成するため，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。【(4)】

イ　筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。【(4)】

ウ　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。【(4)】

エ　引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

オ　文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。【(4)】

カ　文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の

文章のよいところを見付けること。【(4)】

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。【(4)】

イ　短歌や俳句をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

ウ　事実や経験を基に，感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

第２節　社会

〔第３学年〕

２ 内容

(1) 身近な地域や市区町村の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。【(6)】

(ｲ) 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして，白地図などにまとめること。【(6)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 都道府県内における市の位置，市の地形や土地利用，交通の広がり，市役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などに着目して，身近な地域や市の様子を捉え，場所による違いを考え，表現すること。【(6)】

〔第５学年〕

２ 内容

(1) 我が国の国土の様子と国民生活について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 世界における我が国の国土の位置，国土の構成，領土の範囲などを大まかに理解すること。【(7)】

(ｲ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに，人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。

(ｳ) 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。【(7)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 世界の大陸と主な海洋，主な国の位置，海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して，我が国の国土の様子を捉え，その特色を考え，表現すること。【(7)】

(ｲ) 地形や気候などに着目して，国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え，国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え，表現すること。

(2) 我が国の農業や水産業における食料生産について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 我が国の食料生産は，自然条件を生かして営まれていることや，国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

(ｲ) 食料生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解すること。

(ｳ) 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。【(9)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 生産物の種類や分布，生産量の変化，輸入など外国との関わりなどに着目して，食料生産の概要を捉え，食料生産が国民生活に果たす役割を考え，表現すること。【(9)】

(ｲ) 生産の工程，人々の協力関係，技術の向上，輸送，価格や費用などに着目して，食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え，その働きを考え，表現すること。

〔第６学年〕

２　内容

(1)　我が国の政治の働きについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 日本国憲法は国家の理想，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや，現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに，立法，行政，司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。

(ｲ) 国や地方公共団体の政治は，国民主権の考え方の下，国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。

(ｳ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して，我が国の民主政治を捉え，日本国憲法が国民生活に果たす役割や，国会，内閣，裁判所と国民との関わりを考え，表現すること。【(10)】

(ｲ) 政策の内容や計画から実施までの過程，法令や予算との関わりなどに着目して，国や地方公共団体の政治の取組を捉え，国民生活における政治の働きを考え，表現すること。

(2) 我が国の歴史上の主な事象について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。その際，我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに，大まかな歴史を理解するとともに，関連する先人の業績，優れた文化遺産を理解すること。

(ｱ) 狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和政権（大和朝廷）の成立を手掛かりに，むらからくにへと変化したことを理解すること。その際，神話・伝承を手掛かりに，国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

(ｲ) 大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子を手掛かりに，天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。

(ｳ) 貴族の生活や文化を手掛かりに，日本風の文化が生まれたことを理解すること。

(ｴ) 源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを手掛かりに，武士による政治が始まったことを理解すること。

(ｵ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに，今日の生活文化につな

がる室町文化が生まれたことを理解すること。【(8)】

(ｶ) キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一を手掛かりに，戦国の世が統一されたことを理解すること。

(ｷ) 江戸幕府の始まり，参勤交代，幕府の対外政策，身分制を手掛かりに，武士による政治が安定したことを理解すること。

(ｸ) 歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学を手掛かりに，町人文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。

(ｹ) 黒船の来航，廃藩置県や四民平等などの改革，文明開化などを手掛かりに，我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

(ｺ) 大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などを手掛かりに，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。

(ｻ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

(ｼ) 遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べ，まとめること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して，我が国の歴史上の主な事象を捉え，我が国の歴史の展開を考えるとともに，歴史を学ぶ意味を考え，表現すること。【(8)】

第３節　算数

〔第２学年〕

２ 内容

Ｂ 図形

(1) 図形に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 三角形，四角形について知ること。

(ｲ) 正方形，長方形，直角三角形について知ること。【(16)】

(ｳ) 正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し，それらを構成したり分解したりすること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えるとともに，身の回りのものの形を図形として捉えること。【(16)】

〔数学的活動〕

(1) 内容の「Ａ数と計算」，「Ｂ図形」，「Ｃ測定」及び「Ｄデータの活用」に示す学習については，次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，数量や図形に進んで関わる活動

イ　日常の事象から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式を用いるなどして解決し，結果を確かめる活動

ウ　算数の学習場面から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式を用いるなどして解決し，結果を確かめる活動【(16)】

エ　問題解決の過程や結果を，具体物，図，数，式などを用いて表現し伝え合う活動

〔第３学年〕

２ 内容

D データの活用

(1) データの分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し，表に表したり読んだりすること。【(15)】

(ｲ) 棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。【(15)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) データを整理する観点に着目し，身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して，見いだしたことを表現すること。【(15)】

〔数学的活動〕

(1) 内容の「A数と計算」，「B図形」，「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については，次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，数量や図形に進んで関わる活動

イ　日常の事象から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式を用いるなどして解決し，結果を確かめる活動【(15)】

ウ　算数の学習場面から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式を用いるなどして解決し，結果を確かめる活動

エ　問題解決の過程や結果を，具体物，図，数，式などを用いて表現し伝え合う活動

〔第４学年〕

２ 内容

C 変化と関係

(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 変化の様子を表や式，折れ線グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりすること。【(15)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。

(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 簡単な場合について，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。

D データの活用

(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) データを二つの観点から分類整理する方法を知ること。

(ｲ) 折れ線グラフの特徴とその用い方を理解すること。【(15)】

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 目的に応じてデータを集めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目し，問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し，その結論について考察すること。【(15)】

〔数学的活動〕

(1) 内容の「A数と計算」,「B図形」,「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については，次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　日常の事象から算数の問題を見いだして解決し，結果を確かめたり，日常生活等に生かしたりする活動

イ　算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し，結果を確かめたり，発展的に考察したりする活動

ウ　問題解決の過程や結果を，図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動【(15)】

〔第６学年〕

２ 内容

C 変化と関係

(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 比例の関係の意味や性質を理解すること。

(ｲ) 比例の関係を用いた問題解決の方法について知ること。

(ｳ) 反比例の関係について知ること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，目的に応じて表や式，グラフを用いてそれらの関係を表現して，変化や対応の特徴を見いだすとともに，それらを日常生活に生かすこと。【(17)】

(2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 比の意味や表し方を理解し，数量の関係を比で表したり，等しい比をつくったりすること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し，

それを日常生活に生かすこと。【(17)】

〔数学的活動〕

(1) 内容の「A数と計算」,「B図形」,「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については,次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し，解決過程を振り返り，結果や方法を改善したり，日常生活等に生かしたりする活動

イ　算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し，解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動

ウ　問題解決の過程や結果を，目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動【(17)】

第４節　理科

第２ 各学年の目標及び内容

〔第３学年〕

２ 内容

B 生命・地球

(1) 身の回りの生物

身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，それらの様子や周辺の環境，成長の過程や体のつくりに着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること。また，周辺の環境と関わって生きていること。【(19)】

(ｲ) 昆虫の育ち方には一定の順序があること。また，成虫の体は頭，胸及び腹からできていること。

(ｳ) 植物の育ち方には一定の順序があること。また，その体は根，茎及び葉からできていること。

イ　身の回りの生物の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，身の回りの生物と環境との関わり，昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を見いだし，表現すること。【(20)】

〔第５学年〕

２ 内容

A 物質・エネルギー

(2) 振り子の運動

振り子の運動の規則性について，振り子が１往復する時間に着目して，おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 振り子が１往復する時間は，おもりの重さなどによっては変わらないが，振り子の長さによって変わること。【(22)】

イ　振り子の運動の規則性について追究する中で，振り子の１往復する時間に関係する条件について

の予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。【(22)】

B 生命・地球

(3) 流れる水の働きと土地の変化

流れる水の働きと土地の変化について，水の速さや量に着目して，それらの条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 流れる水には，土地を侵食したり，石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。【(21)】

(ｲ) 川の上流と下流によって，川原の石の大きさや形に違いがあること。

(ｳ) 雨の降り方によって，流れる水の量や速さは変わり，増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。【(21)】

イ 流れる水の働きについて追究する中で，流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。【(21)】

第５節 生活

〔第１学年及び第２学年〕

２ 内容

〔学校，家庭及び地域の生活に関する内容〕

(1) 学校生活に関わる活動を通して，学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達，通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ，学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり，楽しく安心して遊びや生活をしたり，安全な登下校をしたりしようとする。

(2) 家庭生活に関わる活動を通して，家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ，家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり，自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。

(3) 地域に関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ，自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとする。【(27)】

〔自分自身の生活や成長に関する内容〕

(9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して，自分のことや支えてくれた人々について考えることができ，自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かるとともに，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活しようとする。【(26)】

第６節 音楽

２ 内容

〔第５学年及び第６学年〕

A 表現

(2) 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。【(29)】

イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について理解すること。

(ｱ) 曲想と音楽の構造との関わり

(ｲ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり【(29)】

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ) 範奏を聴いたり，ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能

(ｲ) 音色や響きに気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ｳ) 各声部の楽器の音や全体の響き，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能【(28)】

(3) 音楽づくりの活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ)及び(ｲ)をできるようにすること。

(ｱ) 即興的に表現することを通して，音楽づくりの様々な発想を得ること。【(28)】

(ｲ) 音を音楽へと構成することを通して，どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。【(28)】

イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。

(ｱ) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴【(28)】

(ｲ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴【(28)】

ウ　発想を生かした表現や，思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。

(ｱ) 設定した条件に基づいて，即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能【(28)】

(ｲ) 音楽の仕組みを用いて，音楽をつくる技能【(28)】

第７節　図画工作

〔第１学年及び第２学年〕

２ 内容

A 表現

(1) 表現の活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形遊びをする活動を通して，身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや，感覚や気持ちを生かしながら，どのように活動するかについて考えること。【(31)】

イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したことから，表したいことを見付けることや，好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかについて考えること。【(32)】

(2) 表現の活動を通して，技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形遊びをする活動を通して，身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに，並べたり，

つないだり，積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ，活動を工夫してつくること。【(31)】

イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに，手や体全体の感覚などを働かせ，表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。【(32)】

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。【(31)，(32)】

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などに気付くこと。【(31)，(32)】

イ　形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。【(32)】

〔第３学年及び第４学年〕

２ 内容

A 表現

(1) 表現の活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形遊びをする活動を通して，身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや，新しい形や色などを思い付きながら，どのように活動するかについて考えること。【(33)】

イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えること。

(2) 表現の活動を通して，技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形遊びをする活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，組み合わせたり，切ってつないだり，形を変えたりするなどして，手や体全体を十分に働かせ活動を工夫してつくること。【(33)】

イ　絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な美術作品，製作の過程などの造形的なよさや面白さ，表したいこと，いろいろな表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること。【(33)】

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。

イ　形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。

第８節　家庭

〔第５学年及び第６学年〕

１ 内容

B 衣食住の生活

次の(1)から(6)までの項目について，課題をもって，健康・快適・安全で豊かな食生活，衣生活，住生活に向けて考え，工夫する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(2) 調理の基礎

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり，調理計画について理解すること。

(ｲ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し，適切に使用できること。

(ｳ) 材料に応じた洗い方，調理に適した切り方，味の付け方，盛り付け，配膳及び後片付けを理解し，適切にできること。

(ｴ) 材料に適したゆで方，いため方を理解し，適切にできること。【(35)】

(ｵ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し，適切にできること。

イ　おいしく食べるために調理計画を考え，調理の仕方を工夫すること。【(35)】

(6) 快適な住まい方

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 住まいの主な働きが分かり，季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

(ｲ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し，適切にできること。【(34)】

イ　季節の変化に合わせた住まい方，整理・整頓や清掃の仕方を考え，快適な住まい方を工夫すること。【(34)】

第９節　体育

〔第１学年及び第２学年〕

２ 内容

F 表現リズム遊び

表現リズム遊びについて，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ること。

ア　表現遊びでは，身近な題材の特徴を捉え，全身で踊ること。【(38)】

イ　リズム遊びでは，軽快なリズムに乗って踊ること。

(2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり，軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること。【(38)】

(3) 運動遊びに進んで取り組み，誰とでも仲よく踊ったり，場の安全に気を付けたりすること。

〔第５学年及び第６学年〕

２ 内容

B 器械運動

器械運動について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技を身に付けること。

ア　マット運動では，回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったり，それらを繰り返したり組み合わせたりすること。

イ　鉄棒運動では，支持系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったり，それらを繰り返したり組み合わせたりすること。【(37)】

ウ　跳び箱運動では，切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり，その発展技を行ったりすること。

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。【(37)】

(3) 運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

第１０節　外国語

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。【(41)】

イ　身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりすること。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については，(1)に示す事項を活用して，例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア　聞くこと

(ｱ) 自分のことや学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞いて，それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。【(41)】

(ｲ) 日付や時刻，値段などを表す表現など，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取る活動。

(ｳ) 友達や家族，学校生活など，身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を，イラストや写真などを参考にしながら聞いて，必要な情報を得る活動。【(41)】

イ　読むこと

(ｱ) 活字体で書かれた文字を見て，どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。

(ｲ) 活字体で書かれた文字を見て，その読み方を適切に発音する活動。

(ｳ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから，自分が必要とする情報を得る活動。

(ｴ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を，絵本などの中から識別する活動。

ウ　話すこと［やり取り］

(ｱ) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり，相手に指示や依頼をして，それらに応じたり断ったりする活動。

(ｲ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを伝えたり，簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。**【(41)】**

(ｳ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり，相手に関する簡単な質問をその場でしたりして，短い会話をする活動。

エ　話すこと［発表］

(ｱ) 時刻や日時，場所など，日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。

(ｲ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。

(ｳ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて，学校生活や地域に関することなど，身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを話す活動。**【(41)】**

第３章　特別の教科 道徳

Ｂ 主として人との関わりに関すること

［友情，信頼］

〔第５学年及び第６学年〕

友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。**【(40)】**

第４章　外国語活動

（略）

第５章　総合的な学習の時間　**【(43)，(44)，(45)，(46)，(47)】**

第１　目標

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に

参画しようとする態度を養う。

第２ 各学校において定める目標及び内容

１ 目標

各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

２ 内容

各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

３ 各学校において定める目標及び内容の取扱い

各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学校において定める目標については，各学校における教育目標を踏まえ，総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

(2) 各学校において定める目標及び内容については，他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。

(3) 各学校において定める目標及び内容については，日常生活や社会との関わりを重視すること。

(4) 各学校において定める内容については，目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。

(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については，学校の実態に応じて，例えば，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題，地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題，児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，次の事項に配慮すること。

ア　知識及び技能については，他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ，社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ　思考力，判断力，表現力等については，課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され，未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ　学びに向かう力・人間性等については，自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

(7) 目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ，活用されるものとなるよう配慮すること。

第３ 指導計画の作成と内容の取扱い

１ 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 年間や，単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，児童や学校，地域の実態等に応じて，児童が探究的な見方・考え方を働かせ，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動を行うこと。

(2) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては，学校における全教育活動との関連の下に，目標及

び内容，学習活動，指導方法や指導体制，学習の評価の計画などを示すこと。

(3) 他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け，学習や生活において生かし，それらが総合的に働くようにすること。その際，言語能力，情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。

(4) 他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。

(5) 各学校における総合的な学習の時間の名称については，各学校において適切に定めること。

(6) 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

(7) 第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること。

２ 第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 第２の各学校において定める目標及び内容に基づき，児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。

(2) 探究的な学習の過程においては，他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際，例えば，比較する，分類する，関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。

(3) 探究的な学習の過程においては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して，情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際，コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し，情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。

(4) 自然体験やボランティア活動などの社会体験，ものづくり，生産活動などの体験活動，観察・実験，見学や調査，発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

(5) 体験活動については，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえ，探究的な学習の過程に適切に位置付けること。

(6) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態，地域の人々の協力も得つつ，全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。

(7) 学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

(8) 国際理解に関する学習を行う際には，探究的な学習に取り組むことを通して，諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

(9) 情報に関する学習を行う際には，探究的な学習に取り組むことを通して，情報を収集・整理・発信したり，情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。第１章総則の第３の１の(3)のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には，プログラミングを体験することが，探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすること。

第６章　特別活動

〔学級活動〕

２ 内容

１の資質・能力を育成するため，全ての学年において，次の各活動を通して，それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し，主体的に考えて実践できるよう指導する。

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア　基本的な生活習慣の形成

身の周りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け，節度ある生活にすること。

イ　よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け，違いを尊重し合い，仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。【(50)】

エ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

給食の時間を中心としながら，健康によい食事のとり方など，望ましい食習慣の形成を図るとともに，食事を通して人間関係をよりよくすること。

別添資料２

中学校学習指導要領（案）【抜粋】

第１章　総則

第４ 生徒の発達の支援

２ 特別な配慮を必要とする生徒への指導

【】内は資料２「２.各論」の番号と対応

(1) 障害のある生徒などへの指導　【(51)】

ア　障害のある生徒などについては，特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ，個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ　特別支援学級において実施する特別の教育課程については，次のとおり編成するものとする。

(ｱ) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第７章に示す自立活動を取り入れること。

(ｲ) 生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮の上，各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり，各教科を，知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして，実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ　障害のある生徒に対して，通級による指導を行い，特別の教育課程を編成する場合には，特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第７章に示す自立活動の内容を参考とし，具体的な目標や内容を定め，指導を行うものとする。その際，効果的な指導が行われるよう，各教科等と通級による指導との関連を図るなど，教師間の連携に努めるものとする。

エ　障害のある生徒などについては，家庭，地域及び医療や福祉，保健，労働等の業務を行う関係機関との連携を図り，長期的な視点で生徒への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに，各教科等の指導に当たって，個々の生徒の実態を的確に把握し，個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に，特別支援学級に在籍する生徒や通級による指導を受ける生徒については，個々の生徒の実態を的確に把握し，個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し，効果的に活用するものとする。

第２章　各教科

第１節　国語

〔第１学年〕

２ 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　言葉には，相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。

イ　話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。

ウ　第１学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むこと。また，学年別漢字配当表に示されている漢字を書き，文や文章の中で使うこと。

エ　抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。【(5)】

オ　単語の活用，助詞や助動詞などの働き，文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに，話や文章の構成や展開について理解を深めること。

第２節　社会

〔地理的分野〕

２ 内容

B 世界の様々な地域

(1) 世界各地の人々の生活と環境

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 人々の生活は，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。

(ｲ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際，世界の主な宗教の分布についても理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。

(2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ，空間的相互依存作用や地域などに着目して，主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① アジア② ヨーロッパ③ アフリカ④ 北アメリカ⑤ 南アメリカ⑥ オセアニア

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 世界各地で顕在化している地球的課題は，それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて，現れ方が異なることを理解すること。

(ｲ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に，各州の地域的特色を大観し理解すること。**【(13)】**

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) ①から⑥までの世界の各州において，地域で見られる地球的課題の要因や影響を，州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して，それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること。**【(13)】**

C 日本の様々な地域

(1) 地域調査の手法

場所などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 観察や野外調査，文献調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方の基礎を理解すること。

(ｲ) 地形図や主題図の読図，目的や用途に適した地図の作成などの地理的な技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地域調査において，対象となる場所の特徴などに着目して，適切な主題や調査，まとめとなるように，調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し，表現すること。

(2) 日本の地域的特色と地域区分

次の①から④までの項目を取り上げ，分布や地域などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① 自然環境 ② 人口 ③ 資源・エネルギーと産業 ④ 交通・通信

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 日本の地形や気候の特色，海洋に囲まれた日本の国土の特色，自然災害と防災への取組などを基に，日本の自然環境に関する特色を理解すること。【(14)】

(ｲ) 少子高齢化の課題，国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に，日本の人口に関する特色を理解すること。

(ｳ) 日本の資源・エネルギー利用の現状，国内の産業の動向，環境やエネルギーに関する課題などを基に，日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。【(14)】

(ｴ) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況や物流，人の往来などを基に，国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。【(12)】

(ｵ) ①から④までの項目に基づく地域区分を踏まえ，我が国の国土の特色を大観し理解すること。

(ｶ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に，地域区分をする技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) ①から④までの項目について，それぞれの地域区分を，地域の共通点や差異，分布などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現すること。【(12)，(14)】

(ｲ) 日本の地域的特色を，①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して，それらを関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること。【(12)，(14)】

(3) 日本の諸地域

次の①から⑤までの考察の仕方を基にして，空間的相互依存作用や地域などに着目して，主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① 自然環境を中核とした考察の仕方

② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方

③ 産業を中核とした考察の仕方

④ 交通や通信を中核とした考察の仕方

⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について，その地域的特色や地域の課題を理解すること。

(ｲ) ①から⑤までの考察の仕方で取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 日本の諸地域において，それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を，地域の広

がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること。

(4) 地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。

(ｲ) 地域的な課題の解決に向けて考察，構想したことを適切に説明，議論しまとめる手法について理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地域の在り方を，地域の結び付きや地域の変容，持続可能性などに着目し，そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

〔公民的分野〕

２ 内容

C 私たちと政治

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

(ｲ) 議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

(ｳ) 国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

(ｴ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務について理解すること。【(11)】

イ　地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて，次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

第３節　数学

〔第３学年〕

２ 内容

A 数と式

(1) 正の数の平方根について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 数の平方根の必要性と意味を理解すること。

(ｲ) 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。【(18)】

(ｳ) 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。【(18)】

(ｲ) 数の平方根を具体的な場面で活用すること。

〔数学的活動〕

(1) 「Ａ数と式」，「Ｂ図形」，「Ｃ関数」及び「Ｄデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において，次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　日常の事象や社会の事象を数理的に捉え，数学的に表現・処理し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動

イ　数学の事象から見通しをもって問題を見いだし解決したり，解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動

ウ　数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動【(18)】

第４節　理科

〔第１分野〕

２ 内容

(6) 化学変化とイオン

化学変化についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　化学変化をイオンのモデルと関連付けながら，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 水溶液とイオン

㋐原子の成り立ちとイオン

水溶液に電流を流す実験を行い，水溶液には電流が流れるものと流れないものとがあることを見いだして理解すること。また，電解質水溶液に電流を流す実験を行い，電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに，イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知ること。

㋑酸・アルカリ

酸とアルカリの性質を調べる実験を行い，酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ること。

㋒中和と塩

中和反応の実験を行い，酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解すること。

(ｲ) 化学変化と電池

㋐金属イオン

金属を電解質水溶液に入れる実験を行い，金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解すること。

㋑化学変化と電池

電解質水溶液と２種類の金属などを用いた実験を行い，電池の基本的な仕組みを理解するとともに，化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知ること。【(24)】

イ　化学変化について，見通しをもって観察，実験などを行い，イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し，化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また，探究の過程を振り返ること。【(24)】

〔第２分野〕

２ 内容

(1) いろいろな生物とその共通点

身近な生物についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 生物の観察と分類の仕方

㋐生物の観察

校庭や学校周辺の生物の観察を行い，いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに，観察器具の操作，観察記録の仕方などの技能を身に付けること。

㋑生物の特徴と分類の仕方

いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解するとともに，分類の仕方の基礎を身に付けること。【(23)】

(ｲ) 生物の体の共通点と相違点

㋐植物の体の共通点と相違点

身近な植物の外部形態の観察を行い，その観察記録などに基づいて，共通点や相違点があることを見いだして，植物の体の基本的なつくりを理解すること。また，その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解すること。【(23)】

㋑動物の体の共通点と相違点

身近な動物の外部形態の観察を行い，その観察記録などに基づいて，共通点や相違点があることを見いだして，動物の体の基本的なつくりを理解すること。また，その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解すること。

イ　身近な生物についての観察，実験などを通して，いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに，生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。【(23)】

(6) 地球と宇宙

身近な天体の観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 天体の動きと地球の自転・公転

㋐日周運動と自転

天体の日周運動の観察を行い，その観察記録を地球の自転と関連付けて理解すること。

㋑年周運動と公転

星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い，その観察記録を地球の公転や地軸

の傾きと関連付けて理解すること。

(ｲ) 太陽系と恒星

㋐太陽の様子

太陽の観察を行い，その観察記録や資料に基づいて，太陽の特徴を見いだして理解すること。

㋑惑星と恒星

観測資料などを基に，惑星と恒星などの特徴を見いだして理解するとともに，太陽系の構造について理解すること。

㋒月や金星の運動と見え方

月の観察を行い，その観察記録や資料に基づいて，月の公転と見え方を関連付けて理解すること。また，金星の観測資料などを基に，金星の公転と見え方を関連付けて理解すること。**【大：③】**

イ　地球と宇宙について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また，探究の過程を振り返ること。**【(25)】**

第５節　音楽

〔第２学年及び第３学年〕

２ 内容

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。**【(30)】**

イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について理解すること。

(ｱ) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり **【(30)】**

(ｲ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり **【(30)】**

ウ　次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。

(ｱ) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能**【(30)】**

(ｲ) 創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。**【(30)】**

イ　音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて，音楽における働きと関わらせて理解すること。

第６節　美術

（略）

第７節　保健体育

〔体育分野第１学年及び第２学年〕

２ 内容

E 球技

球技について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。

ア　ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

イ　ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ　ベースボール型では，基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。【(39)】

(3) 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ること。【(39)】

第８節　技術・家庭

〔家庭分野〕

２ 内容

B 衣食住の生活

次の(1)から(7)までの項目について，課題をもって，健康・快適・安全で豊かな食生活，衣生活，住生活に向けて考え，工夫する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。

(ｲ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり，健康によい食習慣について理解すること。【(36)】

イ　健康によい食習慣について考え，工夫すること。【(36)】

(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 栄養素の種類と働きが分かり，食品の栄養的な特質について理解すること。【(36)】

(ｲ) 中学生の１日に必要な食品の種類と概量が分かり，１日分の献立作成の方法について理解すること。【(36)】

イ　中学生の１日分の献立について考え，工夫すること。【(36)】

第９節　外国語

２ 内容

〔知識及び技能〕

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを論理的に表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること。

イ　日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を，選択したり抽出したりするなどして活用し，話したり書いたりして事実や自分の考え，気持ちなどを表現すること。

ウ　日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え，気持ちなどを伝え合うこと。**【(42)】**

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については，(1)に示す事項を活用して，例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア　小学校学習指導要領第２章第 10 節外国語の第２の２の(3)に示す言語活動のうち，小学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ　聞くこと

(ｱ) 日常的な話題について，自然な口調で話される英語を聞いて，話し手の意向を正確に把握する活動。

(ｲ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから，自分が必要とする情報を聞き取る活動。

(ｳ) 友達からの招待など，身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて，その内容を把握し，適切に応答する活動。

(ｴ) 友達や家族，学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて，概要や要点を把握する活動。また，その内容を英語で説明する活動。

ウ　読むこと

(ｱ) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり，その内容を表現するよう音読したりする活動。

(ｲ) 日常的な話題について，簡単な表現が用いられている広告やパンフレット，予定表，手紙，電子メール，短い文章などから，自分が必要とする情報を読み取る活動。

(ｳ) 簡単な語句や表現を用いて書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ，物語などを読んで概要を把握する活動。

(ｴ) 簡単な語句や表現で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで，イラストや写真，図表なども参考にしながら，要点を把握する活動。また，その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

エ　話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について，相手からの質問に対し，その場で適切に応答したり，関連する質問をしたりして，互いに会話を継続する活動。

(ｲ) 日常的な話題について，伝えようとする内容を整理し，自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。

(ｳ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

オ　話すこと［発表］

(ｱ) 関心のある事柄について，その場で考えを整理して口頭で説明する活動。

(ｲ) 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどをまとめ，簡単なスピーチをする活動。**【(42)】**

(ｳ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり，自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。

カ　書くこと

(ｱ) 趣味や好き嫌いなど，自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。

(ｲ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。

(ｳ) 日常的な話題について，簡単な語句や文を用いて，出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。**【(42)】**

(ｴ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分の考えや気持ち，その理由などを書く活動。

第３章　特別の教科道徳

（略）

第４章　総合的な学習の時間　**【(48)，(49)】**

第１　目標

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

第２　各学校において定める目標及び内容

１　目標

各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

２ 内容

各学校においては，第１の目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

３ 各学校において定める目標及び内容の取扱い

各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学校において定める目標については，各学校における教育目標を踏まえ，総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

(2) 各学校において定める目標及び内容については，他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。

(3) 各学校において定める目標及び内容については，日常生活や社会との関わりを重視すること。

(4) 各学校において定める内容については，目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。

(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については，学校の実態に応じて，例えば，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題，地域や学校の特色に応じた課題，生徒の興味・関心に基づく課題，職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，次の事項に配慮すること。

ア 知識及び技能については，他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ，社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ 思考力，判断力，表現力等については，課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され，未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力・人間性等については，自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

(7) 目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については，教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ，活用されるものとなるよう配慮すること。

第３ 指導計画の作成と内容の取扱い

１ 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 年間や，単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，生徒や学校，地域の実態等に応じて，生徒が探究的な見方・考え方を働かせ，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動を行うこと。

(2) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては，学校における全教育活動との関連の下に，目標及び内容，学習活動，指導方法や指導体制，学習の評価の計画などを示すこと。その際，小学校における総合的な学習の時間の取組を踏まえること。

(3) 他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け，学習や生活において生かし，それらが総合的に働くようにすること。その際，言語能力，情報活用能力など全ての学習の

基盤となる資質・能力を重視すること。

(4) 他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。

(5) 各学校における総合的な学習の時間の名称については，各学校において適切に定めること。

(6) 障害のある生徒などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

(7) 第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について，総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること。

２ 第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 第２の各学校において定める目標及び内容に基づき，生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。

(2) 探究的な学習の過程においては，他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際，例えば，比較する，分類する，関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。

(3) 探究的な学習の過程においては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して，情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際，情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。

(4) 自然体験や職場体験活動，ボランティア活動などの社会体験，ものづくり，生産活動などの体験活動，観察・実験，見学や調査，発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

(5) 体験活動については，第１の目標並びに第２の各学校において定める目標及び内容を踏まえ，探究的な学習の過程に適切に位置付けること。

(6) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態，地域の人々の協力も得つつ，全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。

(7) 学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

(8) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には，探究的な学習に取り組むことを通して，自己を理解し，将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

第５章　特別活動

（略）